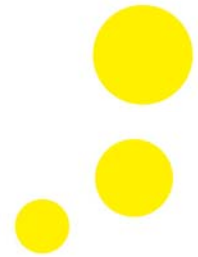
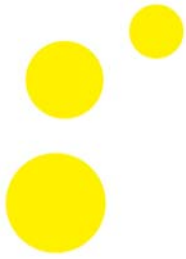


## 第 2 章

### まちづくりの現状と課題



## 第2章 まちづくりの現状と課題

### 2-1. 時代の潮流とその影響

#### 1. 人口減少時代の到来と少子高齢化の一層の進行

我が国の人口は、少子化を主因として平成16年をピークに人口減少時代に入りました。少子社会は、社会活動の停滞や地域の活力低下を招くとともに、超高齢社会の到来も介護や年金などの社会保障費の増大を招くなど、社会や経済のあり方を見直すことが求められています。

#### 2. 環境共生の時代

日常生活や事業活動を通じたエネルギー消費などにより、地球温暖化や酸性雨といった地球規模での環境問題が深刻化しています。また水質汚濁や不法投棄といった身近な環境問題も発生しています。このようななかで人と地球に優しい、持続可能なまちづくりを進めていくことが求められています。

#### 3. 価値観の多様化への対応

少子・高齢社会の到来とともに、高度経済成長から安定経済成長の時代を経て、市民一人ひとりの価値観が多様化しています。

この価値観の多様化は、多彩な暮らしの選択肢を求めており、それらを満足するような生活基盤・都市基盤の充実に努めていく必要があります。

また、一層の個性ある都市文化の創造を図るとともに、多様な価値観に対応したまちづくりが求められています。

#### 4. 高度情報化の時代

インターネットの普及など情報通信技術の飛躍的な発展により、教育・医療・金融など様々な分野におけるネットワーク化が進んでいます。行政においても、市民の利便性や行政運営の効率化を図るために情報通信技術を用いた行政サービスの向上が求められています。また、情報産業を受け入れたり、地域産業を活性化したりすることができる新しいネットワーク型社会に対応したまちづくりを進める必要があります。

## 5. 新しい産業の時代

グローバル化<sup>\*</sup>の進展と東アジア経済の発展、情報通信技術の発達、消費者ニーズ<sup>\*</sup>の多様化などにより、産業構造は大きな転換期を迎えています。

このような環境の変化のなかで国際競争に勝ち抜き、また健康福祉や環境などの社会ニーズに対応するためには、個性と創造性に富んだ組織や人材を育成するなど、新たな産業を創出する土壌の形成が求められています。

農林業では、高齢化や若者離れが進む一方で、「定年就農」、「田舎暮らし」などの動きもあり、雇用情勢や価値観の多様化、また、環境保全活動の一環として農業が注目を集めているなど、新たな農林業の振興に資するまちづくりが求められています。

## 6. 安全で安心して暮らせる社会の形成

日本各地で大規模地震の発生や風水害が毎年のように発生しており、防災対策や減災対策が強く求められています。また、子どもやお年寄り、障がいのある人など誰もが安全に安心して暮らし続けられるユニバーサルデザイン<sup>\*</sup>などによる環境づくりが求められています。

## 7. 地方分権と連携の時代

市民のニーズが多様化・高度化するなかで、全国画一的な行政システムでは、地域の特性や生活に応じた市民サービスの提供などが困難となり、地域の個性や多様性を生かしたまちづくりが難しい状況となっています。この状況を解消するため、平成12年に地方分権一括法<sup>\*</sup>が施行され、地方分権が進められています。

地方分権の進展により、行財政運営の自主性・自立性が高められる機会を得たと同時に、地域の実情にあった行政サービスの確立、自己決定、自己責任による総合的な行政推進、地域の創意工夫と経営能力の手腕が問われる時代となっています。

## 8. 協働のまちづくり

NPO<sup>\*</sup>に関する制度の法制化が進み、まちづくりやボランティア活動など様々な社会活動のなかで新たな可能性が生まれています。地方分権のなかで地域課題に的確に対応し、魅力あるまちづくりを進めるために、これからは、市民、各種団体、行政など多様な主体が知恵と力を出し合い協働する新たな関係や仕組みづくりが不可欠となっています。

## 2-2. 宮若市の現状

### (1) 人口

#### ① 人口・世帯数

##### ○進む人口減少と核家族化の進行

昭和45年から人口減少傾向にあり、平成7年から平成17年までの10年間で1,567人減少しています。また、人口減少に反して世帯数は昭和50年から増加傾向にあり、核家族化が進行しています。

地区別に見ると、宮田地区では、エネルギー革命に伴う炭鉱の閉山の影響により人口は大きく減少してきましたが、近年は減少幅も緩やかになってきています。若宮地区では平成2年以降一貫した減少傾向となっています。

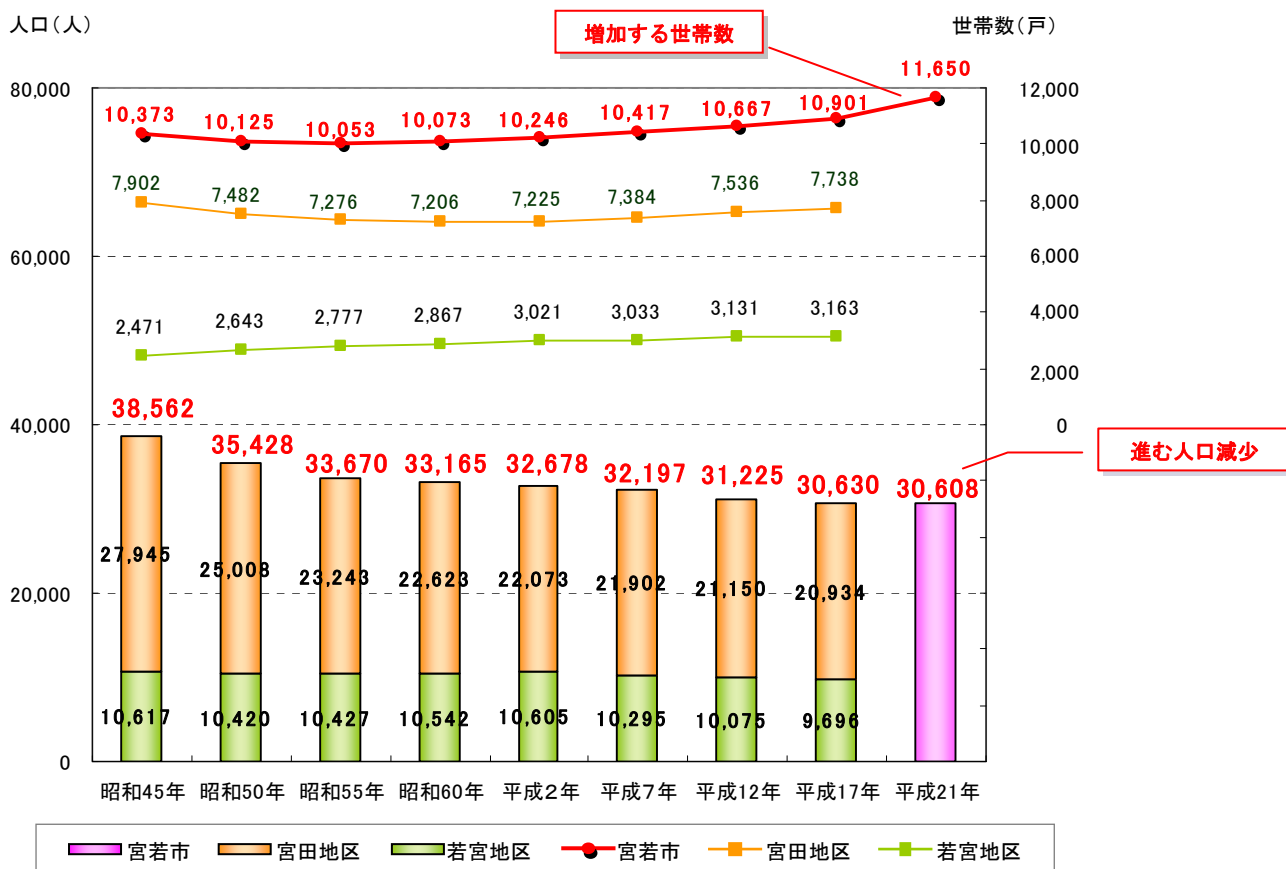


図 人口と世帯数の推移

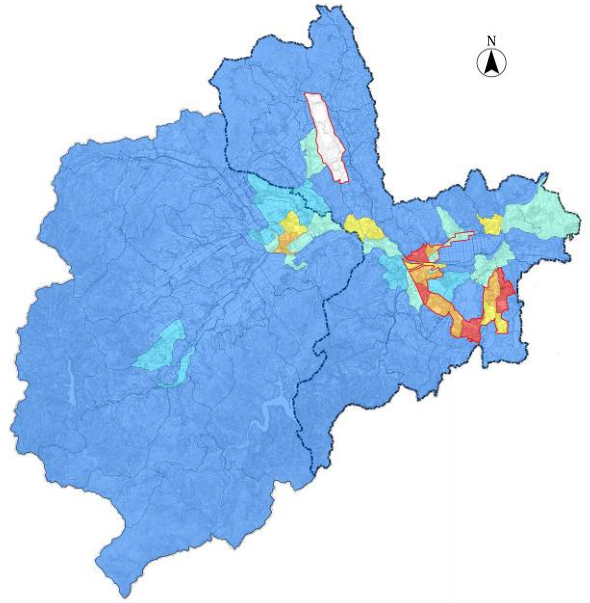
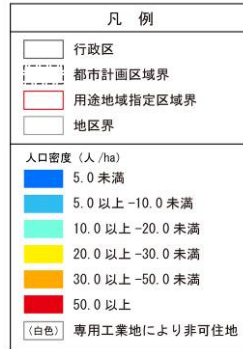
資料：国勢調査（昭和45～平成17年）  
人口移動調査（平成21年10月1日）

② 地区別人口密度

○用途地域内を中心に人口密度は高い

地区別の人口密度を見ると、宮田団地、沿道店舗を主体とした本城地区を除く用途地域で人口密度が高くなっています。

また、用途地域外では、若宮地区中心部、芹田地区、龍徳地区で人口密度が高い状況にあります。



資料：平成19年都市計画基礎調査

図 地区別人口密度

③ 産業大分類別従業人口

○本市の基幹産業は製造業と農業

平成17年における従業人口※の内訳は、第一次産業※5.1%、第二次産業※46.9%、第三次産業※48.0%となっています。第二次産業の占める割合は、県の21.6%と比較すると高くなっており本市の基幹産業※となっています。

また、地区毎に見ると若宮地区では第一次産業の占める割合が高くなっていますが、宮田地区では第二次産業の占める割合が高く地域での違いが見られます。産業大分類別に見ると、第二次産業の製造業に次いでサービス業、卸売・小売業が高い割合を占めていることがわかります。

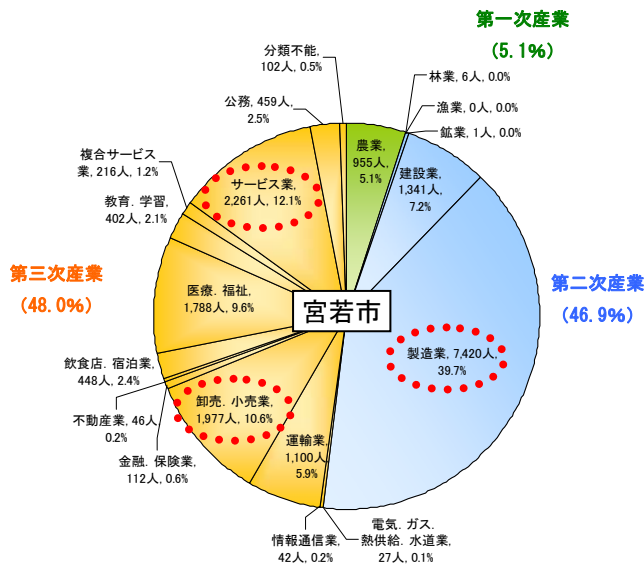
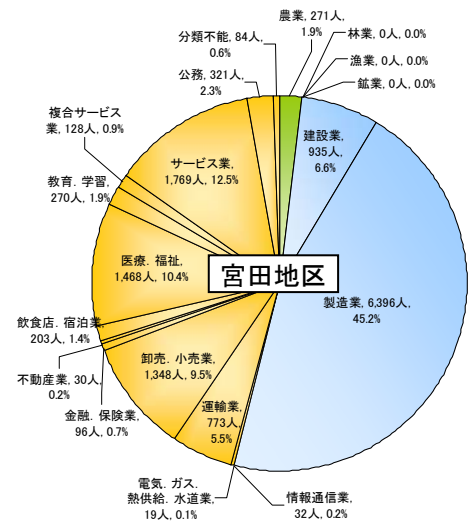
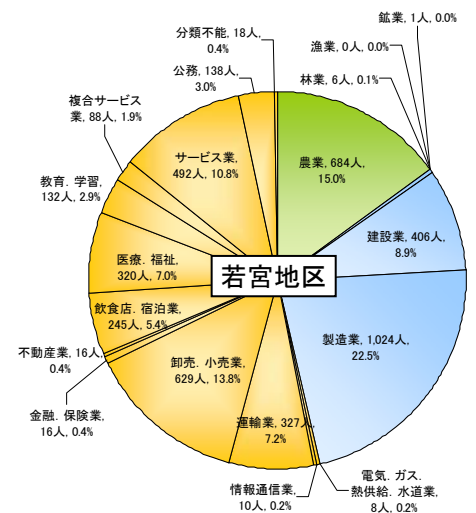


図 産業大分類別人口 (平成17年)



資料：平成17年国勢調査

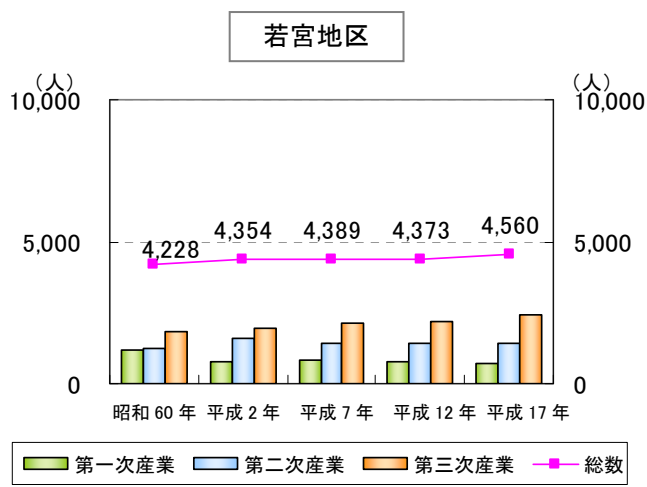
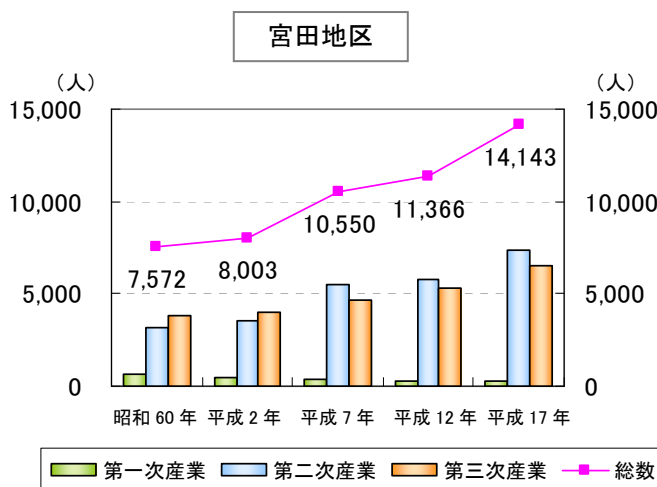
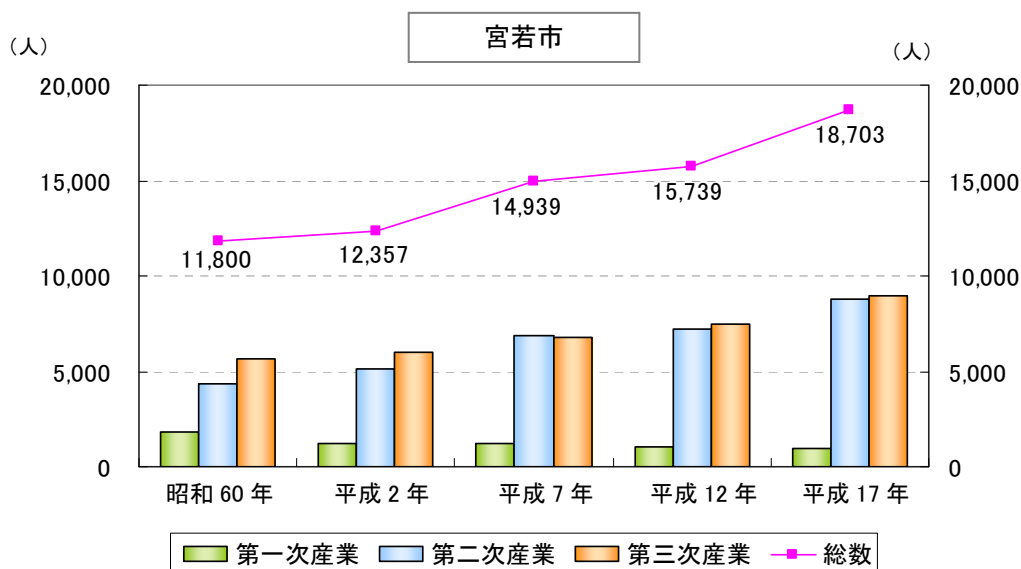
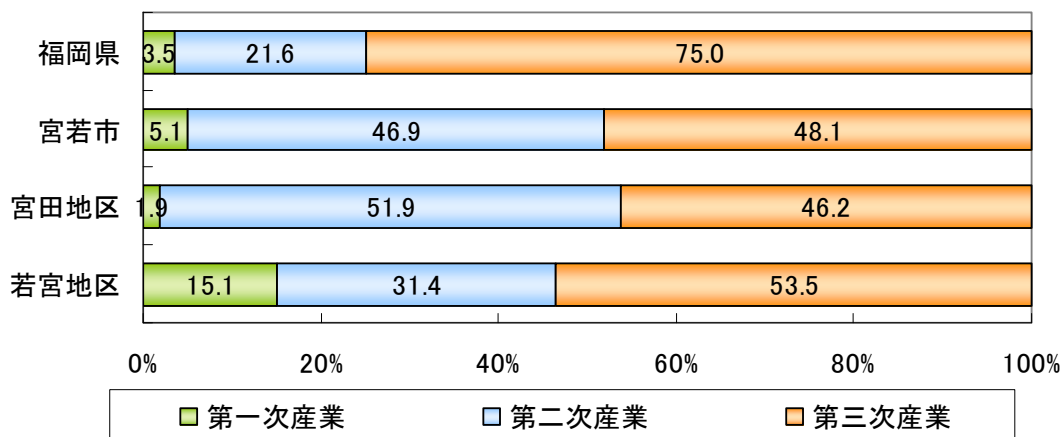


図 産業別従業人口の推移

資料：国勢調査

④ 通勤・通学流動人口

●宮田地区

○工場立地に伴い、流入人口が大幅に増加

昭和60年と平成17年の流出入状況と比較すると、流出については大きな変化はありませんが、宮田団地などの工場立地に伴い、北九州市、宗像市、直方市からの従業者をはじめとする流入人口が大幅に増加しています。

表 宮田地区の通勤・通学流動人口

		昭和60年			
居住地	従業・通学地	宮田地区	若宮地区	市外	合計
宮田地区	宮田地区	5,706	516	4,004	10,226
若宮地区	宮田地区	456	3,554	1,766	5,776
市外	宮田地区	2,003	668	—	2,671
合計	宮田地区への流入人口	8,165	4,738	5,770	—

		平成17年			
居住地	従業・通学地	宮田地区	若宮地区	市外	合計
宮田地区	宮田地区	4,774	417	4,377	9,568
若宮地区	宮田地区	595	2,387	2,266	5,248
市外	宮田地区	9,298	1,833	—	11,131
合計	宮田地区への流入人口	14,667	4,637	6,643	—

資料：国勢調査

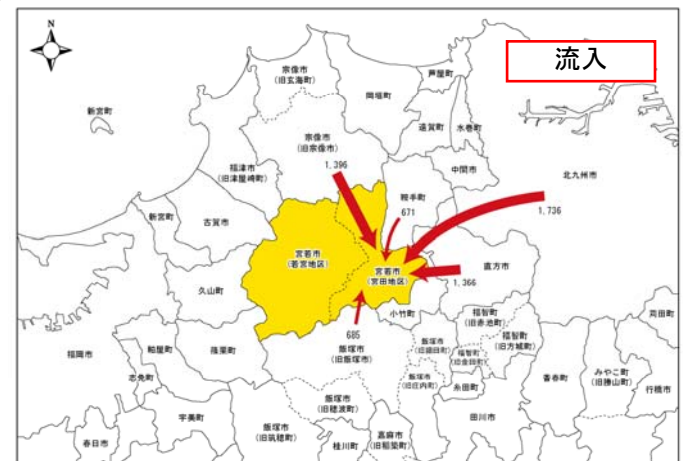


図 流出入状況（昭和60年）

図 流出入状況（平成17年）

注）流出入状況図は、上位5市町村のみを图示した

資料：国勢調査

●若宮地区

○北九州市との繋がりが増加

昭和60年と平成17年の流出入状況を比較すると、流出については大きな変化はありませんが、宗像市や飯塚市からの流入が増加しています。また、北九州市との流出入の割合が増加しています。

表 若宮地区の通勤・通学流動人口

居住地	従業・通学地	昭和60年		
		宮田地区	若宮地区	市外
宮田地区	宮田地区	5,706	516	4,004
若宮地区	宮田地区	456	3,554	1,766
市外	若宮地区	2,003	668	—
合計		8,165	4,738	5,770

若宮地区への流入人口

若宮地区からの流出人口

居住地	従業・通学地	平成17年		
		宮田地区	若宮地区	市外
宮田地区	宮田地区	4,774	417	4,377
若宮地区	宮田地区	595	2,387	2,266
市外	若宮地区	9,298	1,833	—
合計		14,667	4,637	6,643

若宮地区への流入人口

資料：国勢調査

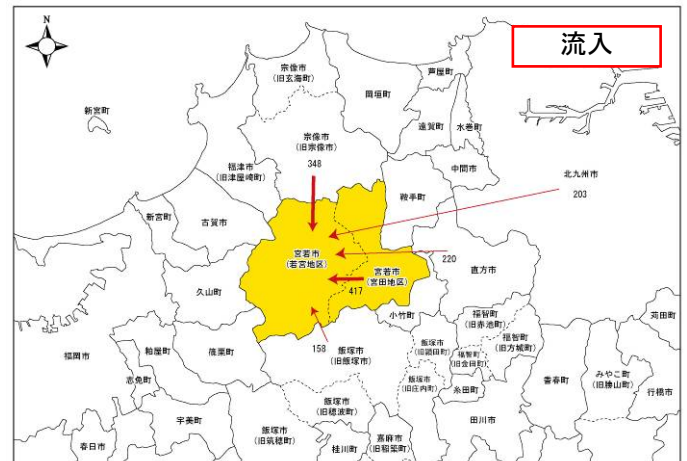


図 流出入状況（昭和60年）

図 流出入状況（平成17年）

注）流出入状況図は、上位5市町村のみを图示した  
資料：国勢調査



(2) 産業

① 産業分類別事業所数

- 総事業所数は減少傾向
- 製造業事業所数が多い

事業所総数は一貫して減少傾向にあります。近年はその減少数は縮小しています。  
産業別の事業所数は、卸売・小売業に次いで、サービス業、建設業、飲食店・宿泊業、製造業が高くなっています。

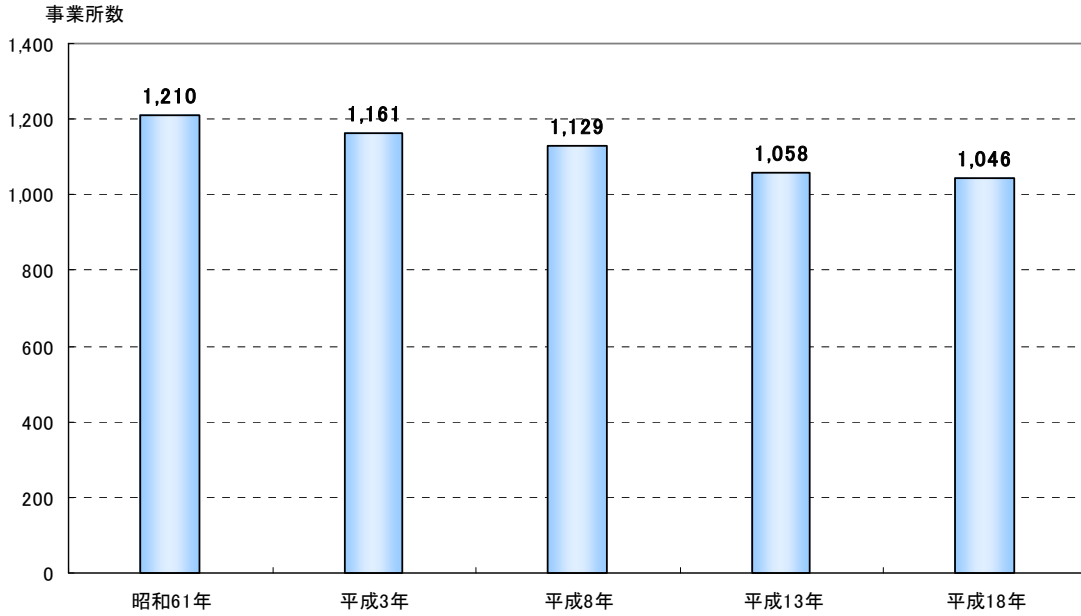


図 事業所数の推移  
(平成11、16年は簡易調査のため割愛)

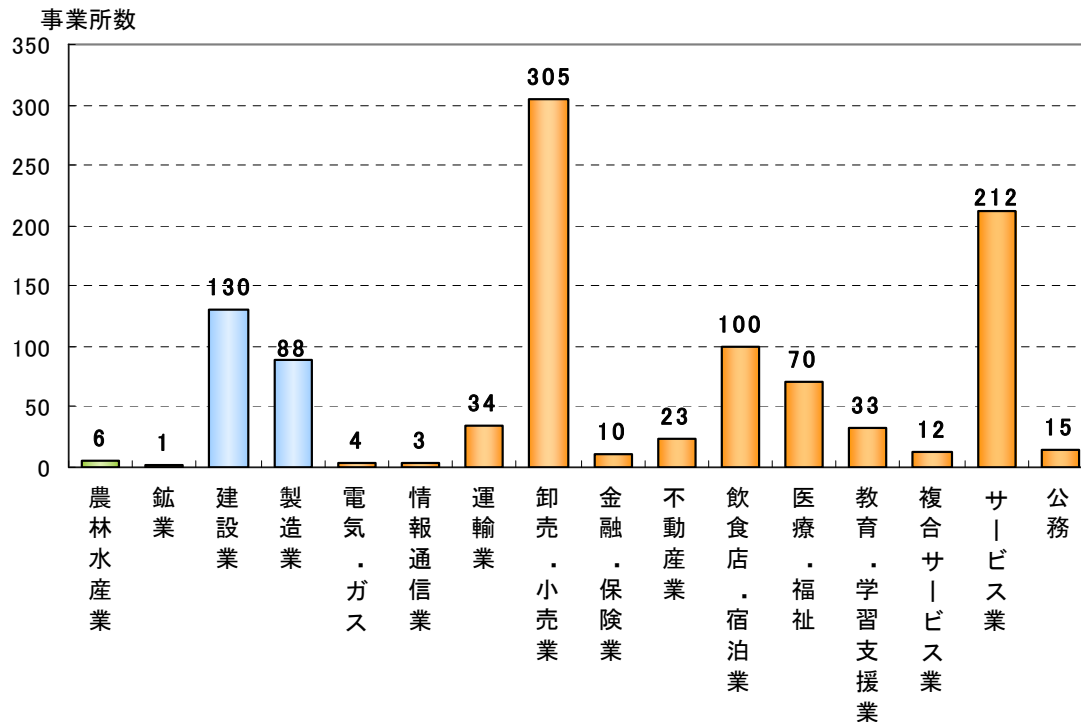


図 産業分類別事業所数 (平成18年)

資料：事業所・企業統計調査

② 農業産出額

○ 農業産出額は25億円前後で推移

本市における農業産出額は概ね25億円前後で推移しており、うち7割強が若宮地区で産出されています。

品目別に産出額を見ると、米が約半数を占めており、次いで野菜、花き、果実の産出額が多くなっています。

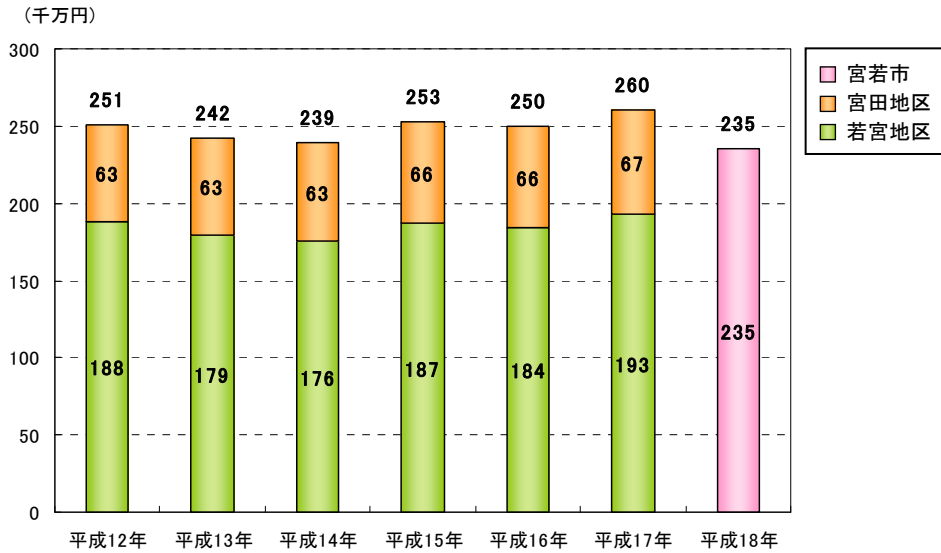


図 農業産出額の推移

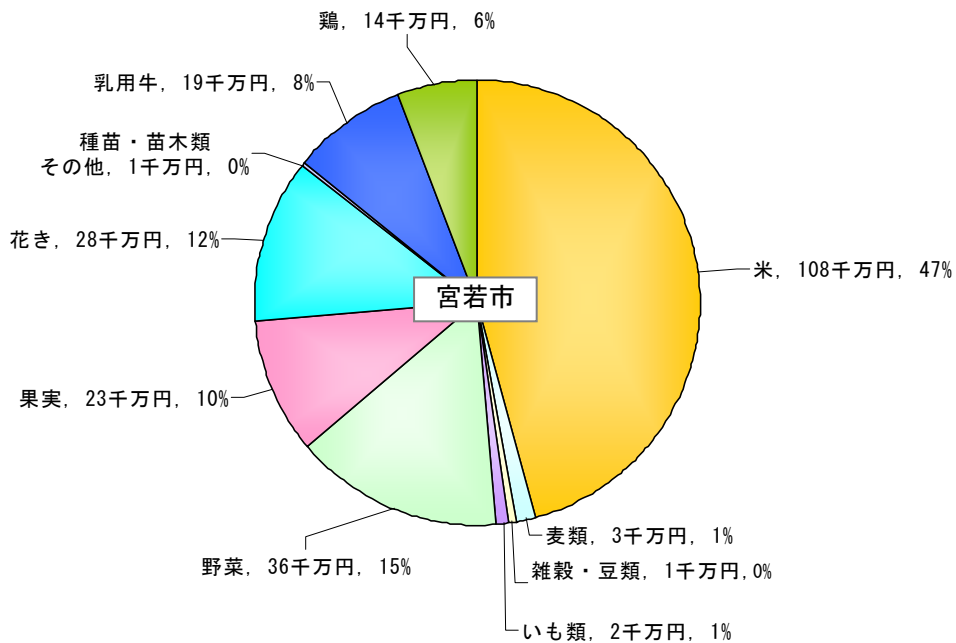


図 農業産出額の品目別構成 (平成18年)

注) 秘匿※品目を除く構成比  
資料: 福岡農林水産統計年報

③ 工業出荷額

- 工業出荷額は大幅な伸び
- 突出した輸送用機械器具の販売額

本市における工業出荷額はトヨタ自動車九州の立地などに支えられ、大幅かつ堅調な伸びを示しています。地区毎に見るとその大部分は宮田地区によるものとなっています。

産業中分類別の工業出荷額では、輸送用機械器具(主に自動車部品製造)が大多数を占めている状況にあります。地区毎に見た場合には、宮田地区は市域とほぼ同じ構成状況にありますが、若宮地区では、金属製品がほぼ半数を占め、次いで輸送用機械器具、窯業・土石製品が高くなっています。

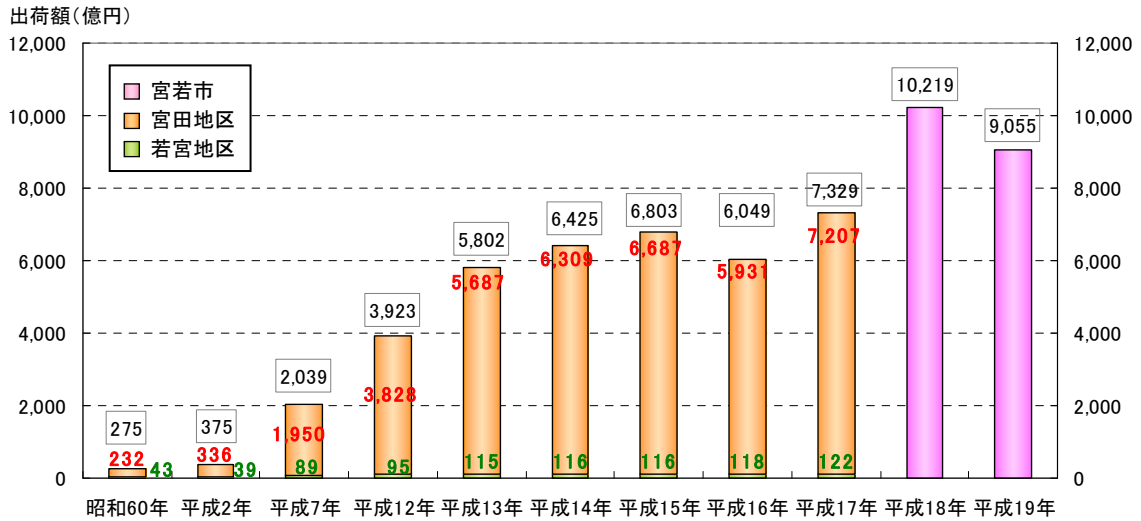


図 工業出荷額の推移

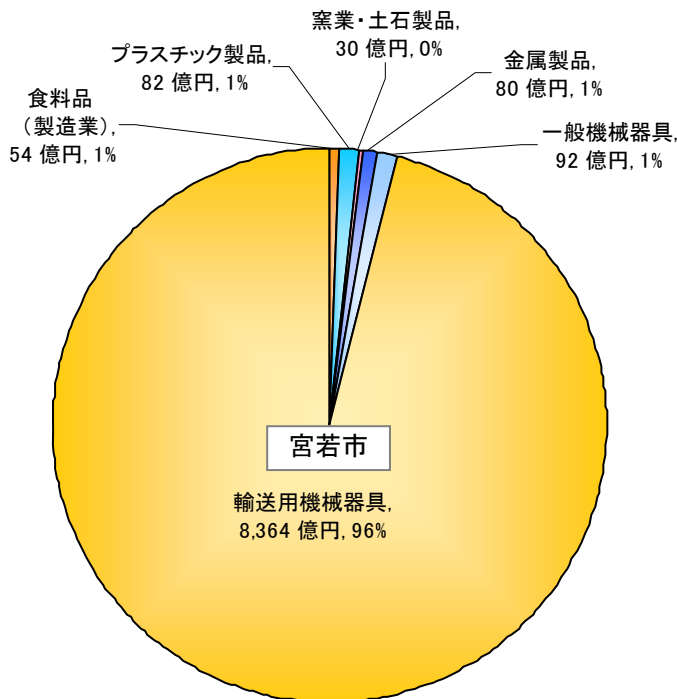


図 産業中分類別 工業出荷額(平成19年)  
注) 秘匿分類を除く構成比

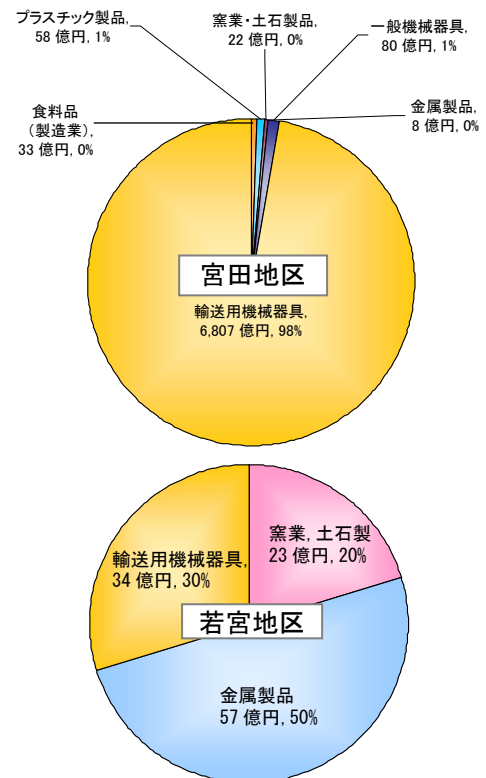


図 産業中分類別 工業出荷額(平成17年)  
注) 秘匿分類を除く構成比  
資料: 工業統計調査

#### ④ 商業販売額

##### ○商業販売額は近年大幅な落ち込み

本市における商業販売額は平成14年までは増加傾向を示していましたが、平成16年は大型物流センターの閉鎖により大幅な落ち込みが見受けられ、その後は回復傾向にあります。

産業中分類別の商品販売額は、卸売業が最も高い状況にあります。また、大規模な小売店舗などがないことから、市外への買い物流出が強く、その結果、小売業としては飲食料品の占める額が高くなっています。

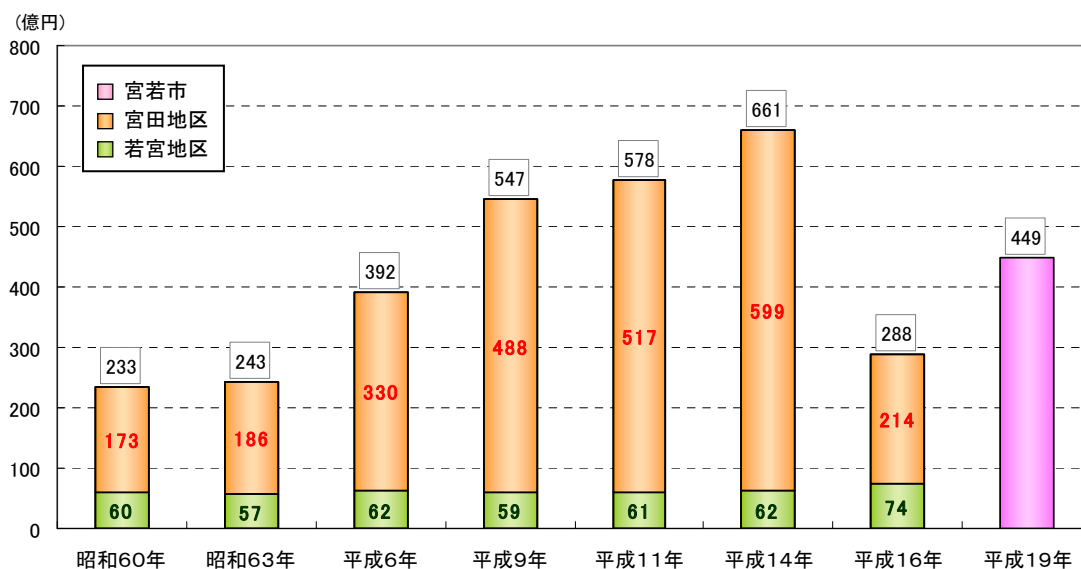


図 商業販売額の推移

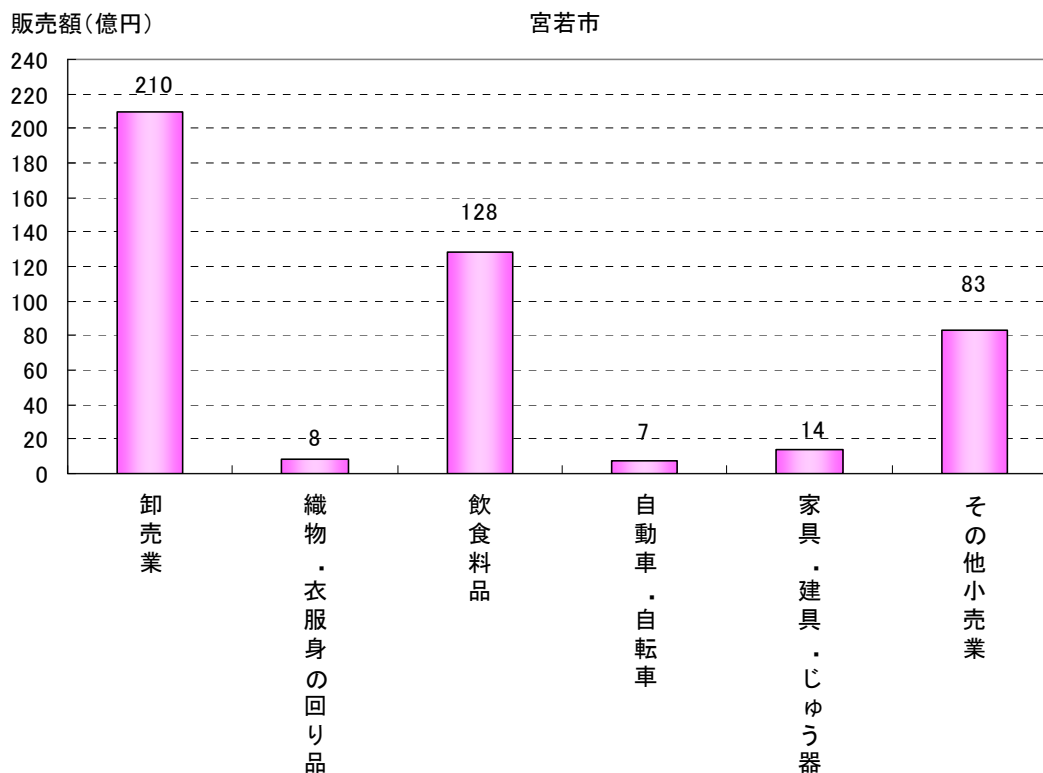


図 産業中分類別 商業販売額 (平成19年)

資料：商業統計調査

(3) 土地利用

① 土地利用現況

○市域の85%が自然的土地利用

本市の土地利用は市域の85%が自然的土地利用となっており、自然豊かな土地利用構成となっています。都市的土地利用については、住宅用地、道路用地が多くを占め、次いで基幹産業である工業用地が高い状況にあります。

地区毎に見ると、宮田地区は自然的土地利用が75%となっており、また工業団地の占める割合が5%と高くなっています。

若宮地区は自然的土地利用の占める割合が高く、91%となっています。

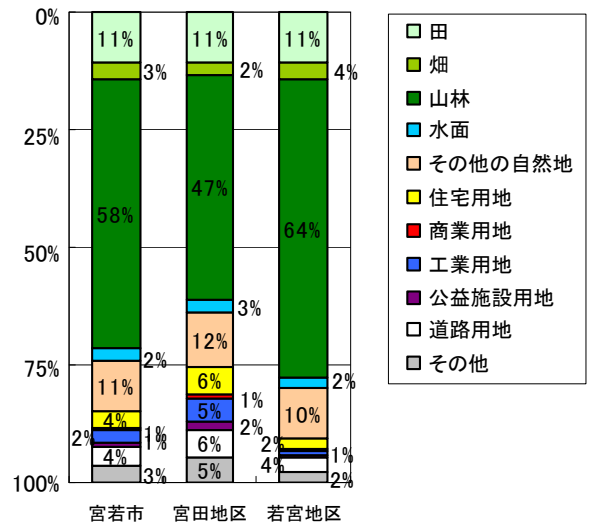


図 土地利用割合

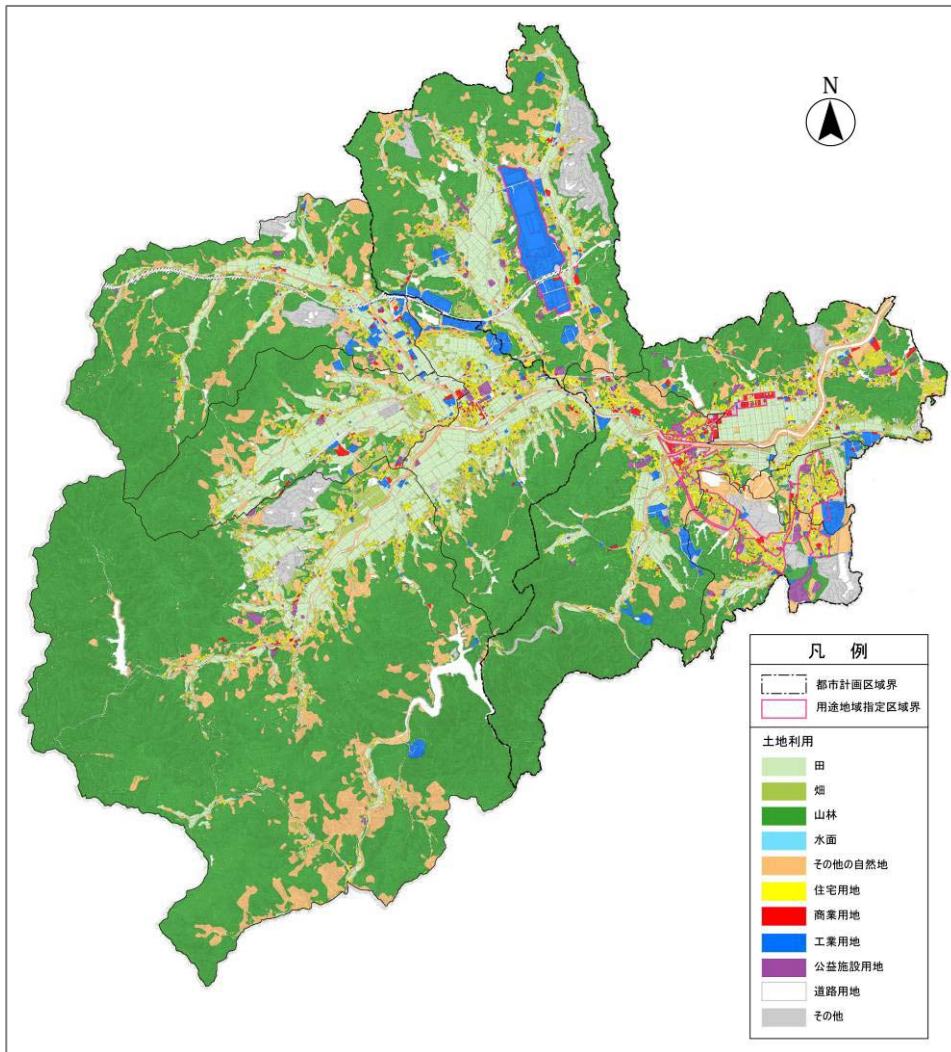


図 土地利用現況

資料：平成19年都市計画基礎調査

② 農地転用状況

○宅地化や工業立地による農地の転用

農地転用\*件数は平成15年から増加傾向にあり、平成17年では工業用地、平成18年では住宅用地への転用面積が大きく増えています。

地区毎で見ると、宮田地区で農地転用が盛んに行われており、工業用地や事務所を含む商業用地、住宅用地への転用が進んでいます。また、若宮地区では、住宅用地への転用が主体となっています。

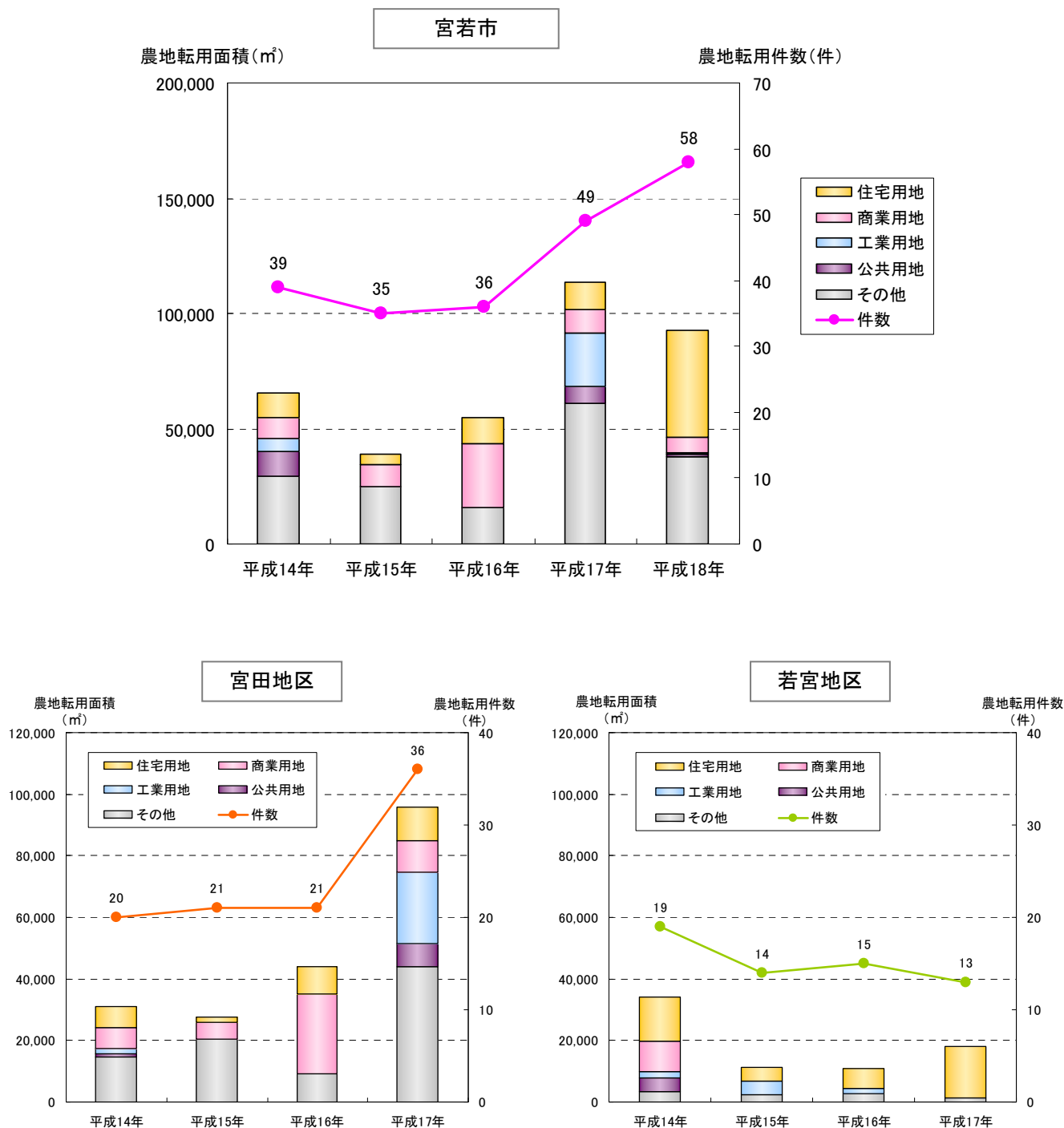


図 農地転用面積と件数の推移

資料：平成19年都市計画基礎調査

## ③ 法適用現況

○都市計画区域内において他の法適用がなされていない白地地域が多く存在

都市計画区域内である宮田地区においては、用途地域や農業振興地域整備計画、自然公園など他の法が適用されていない白地地域が多く残存しており、地域環境と調和しない開発などがなされる恐れがあります。

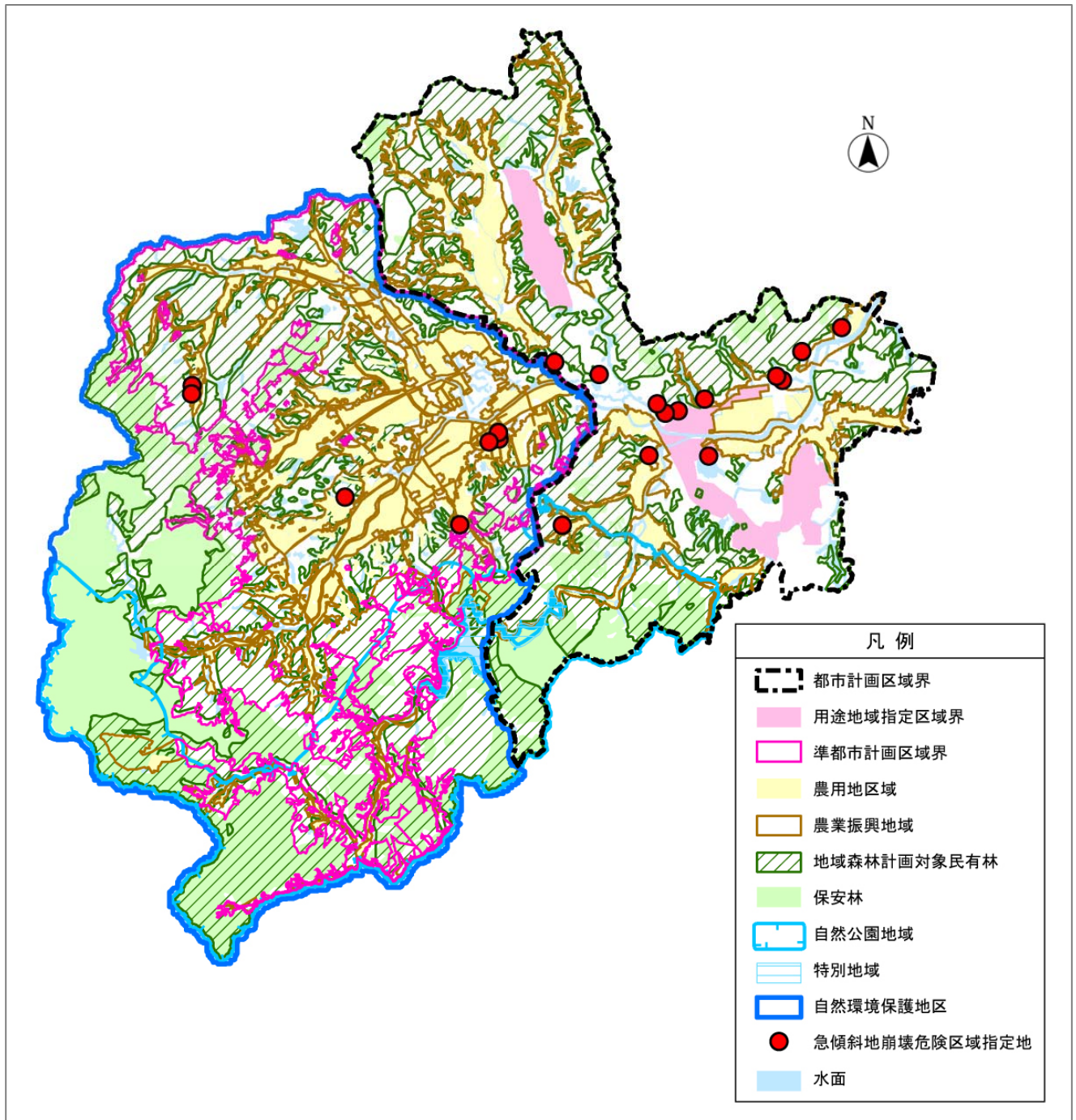


図 法適用現況

資料：平成19年都市計画基礎調査

④ 新築状況

○住宅の割合が多いが、宮田団地周辺や旧町境部などにおいて工業施設も多く立地

表 新築件数（平成14年～18年）

	住宅	商業	工業	その他	合計
宮田地区	322	25	24	40	411
若宮地区	16	6	6	6	34
宮若市	338	31	30	46	445

図 新築建物分布（平成14年～18年）

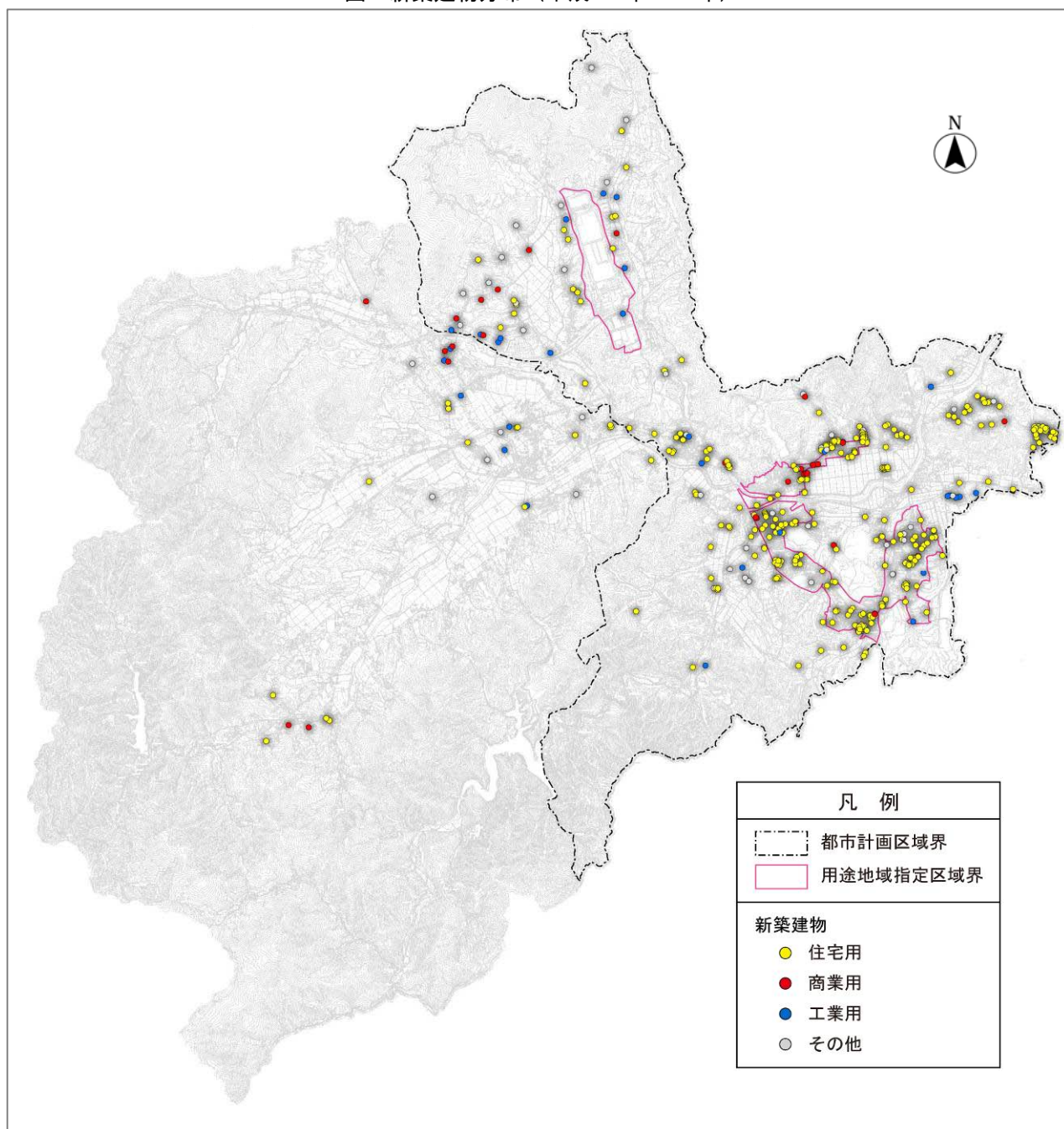


図 新築件数の推移

資料：平成19年都市計画基礎調査



(4) 交通

① 道路網現況

○主要地方道により、東西、南北方向に主要な骨格が形成

○若宮インターチェンジやスマートインターチェンジ※（整備中）が存在

市内各所や市外を結ぶ主要な幹線道路として、東西方向に主要地方道 福岡直方線、室木下有木若宮線、南北方向に主要地方道 飯塚福岡線、岡垣宮田線が配置されています。

また、九州自動車道が横断しており、供用中の若宮インターチェンジのほか、新たにスマートインターチェンジの整備が進められています。



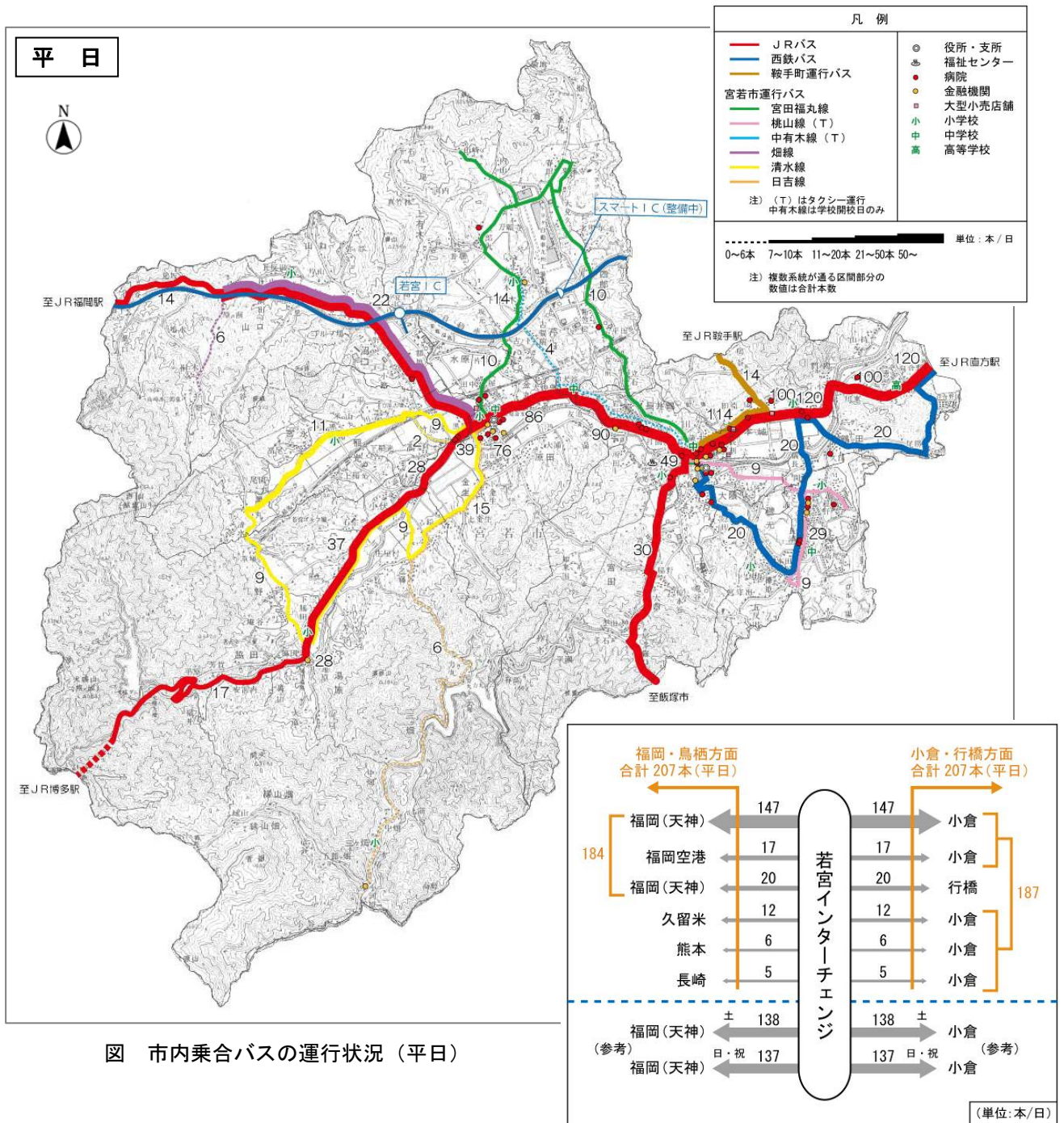
図 道路網現況

② 公共交通現況

○公共交通サービスが低下

本市には鉄道駅がなく、バスが唯一の公共交通機関となり、市内やJR福岡駅、直方駅方面などへ乗合バスが運行しているとともに福祉施設送迎バスが運行しています。また、若宮インターチェンジには高速バス停留所が設置され、市外と連絡する高速バスが運行しています。

本市は福岡と小倉の間に位置することから、高速バスは頻繁に運行し利便性が高い状況にありますが、市内を運行するバス路線については自家用車の普及などにより利用者が減少し、民間バス路線の撤退が進むなど公共交通サービスは低下している状況にあります。



### 2-3. 宮若市の都市計画の概要

#### (1) 都市計画の履歴

都市計画区域とは、一定の区域を一体の都市として、総合的に整備、開発及び保全しようとする場合に県が指定するものです。本市においては、昭和25年に旧宮田町（旧笠松村を除く）の区域が指定されました。また、平成20年には大規模集客施設の郊外立地抑制を主たる目的として、旧若宮町域の保安林、国有林、太宰府県立自然公園の特別地域を除いた区域については、準都市計画区域に指定されています。

また、用途地域については、適正な制限のもとに計画的な土地利用を図る必要がある宮田都市計画区域の市街地を中心に住宅、商業などの用途を定めています。

区 分	決定年次など		
宮田都市計画区域	当初	昭和25年9月12日	—
	変更	昭和50年9月1日	旧笠松村を含め旧宮田町全域となる
(宮田都市計画区域の)用途地域	当初	平成17年10月5日	宮田都市計画区域の一部
宮若準都市計画区域	当初	平成20年3月31日	保安林、国有林、太宰府県立自然公園の特別地域を除いた区域に指定

#### (2) 都市計画の決定状況

宮田都市計画区域においては都市計画制度のもと、用途地域ならびに都市施設として、都市計画道路\*、公園、公共下水道、都市下水路\*などが都市計画決定されています。

都市計画制度	土地利用		地域区分		面積		
	地域地区	用途地域					
都市計画制度	地域地区	用途地域	住居系	第二種低層住居専用地域	28ha		
				第一種中高層住居専用地域	108ha		
				第一種住居地域	103ha		
				準住居地域	20ha		
				小 計	259ha		
			商業系	近隣商業地域	22ha		
				商業地域	6ha		
				小 計	28ha		
			工業系	工業地域	133ha		
				小 計	133ha		
			合 計				420ha
都市計画施設	区 分	名 称		計 画	供 用	供用率	
	交通	都市計画道路		14,360m	2,780m	19.4%	
	公園	毛勝総合公園		13.7ha	0.0ha	0.0%	
	下水道	公共下水道		548ha	59.1ha	10.8%	
		特定環境保全公共下水道*		206ha	0.0ha	0.0%	
		権助都市下水路*(権助ポンプ場)		590m	590m	100.0%	
	汚物処理場	宮若市し尿処理施設（緑水園）		4.8ha	4.8ha	100.0%	
ごみ処理場	宮若市外二町じん芥処理施設（くらじクリーンセンター）		2.6ha	2.6ha	100.0%		

平成23年2月現在

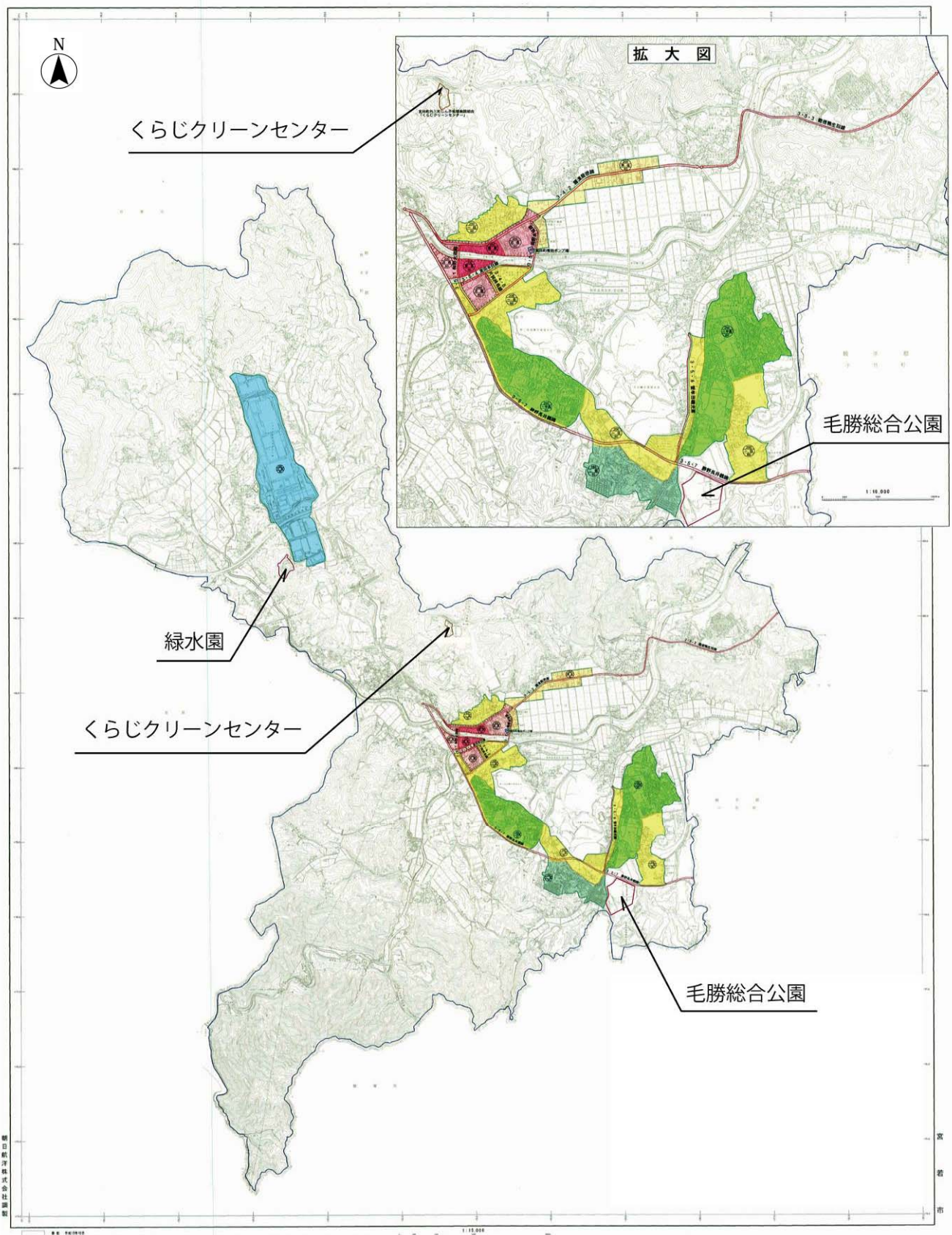


図 宮田都市計画総括

(3) 都市計画道路

○平成 17 年に大幅な見直しを実施

都市計画道路網については、昭和 20 年代に当初決定されましたが、炭鉱の閉山など社会経済情勢の変化などを踏まえ、平成 17 年に大幅な見直しを行っています。

整備状況は 2 割程度であり、今後の整備進捗が求められます。

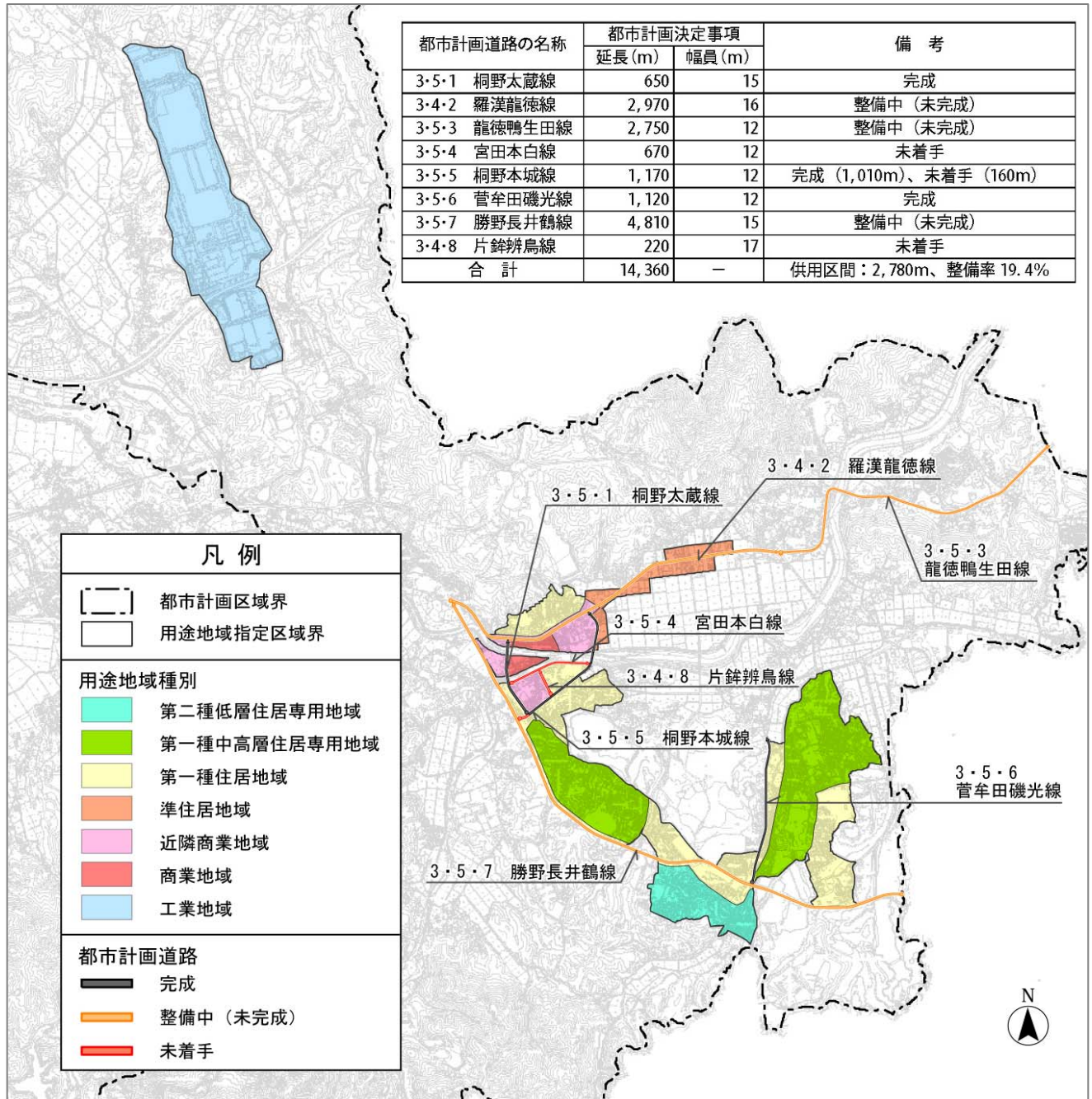


図 都市計画道路網(平成 23 年 2 月現在)

(4) 都市計画公園

○平成 21 年に毛勝総合公園を都市計画決定

本市においてはこれまで都市計画決定された公園はありませんでしたが、宮田町都市計画マスタープランを踏まえ、平成 21 年 12 月に毛勝総合公園が都市計画公園<sup>\*</sup>として新たに都市計画決定され、整備が進められています。

区分	名称	面積	備考
総合公園	毛勝総合公園	13.7ha	野球場、多目的グラウンド、こども交流広場、いこいの広場、プロムナード、テニスコート、育成の森

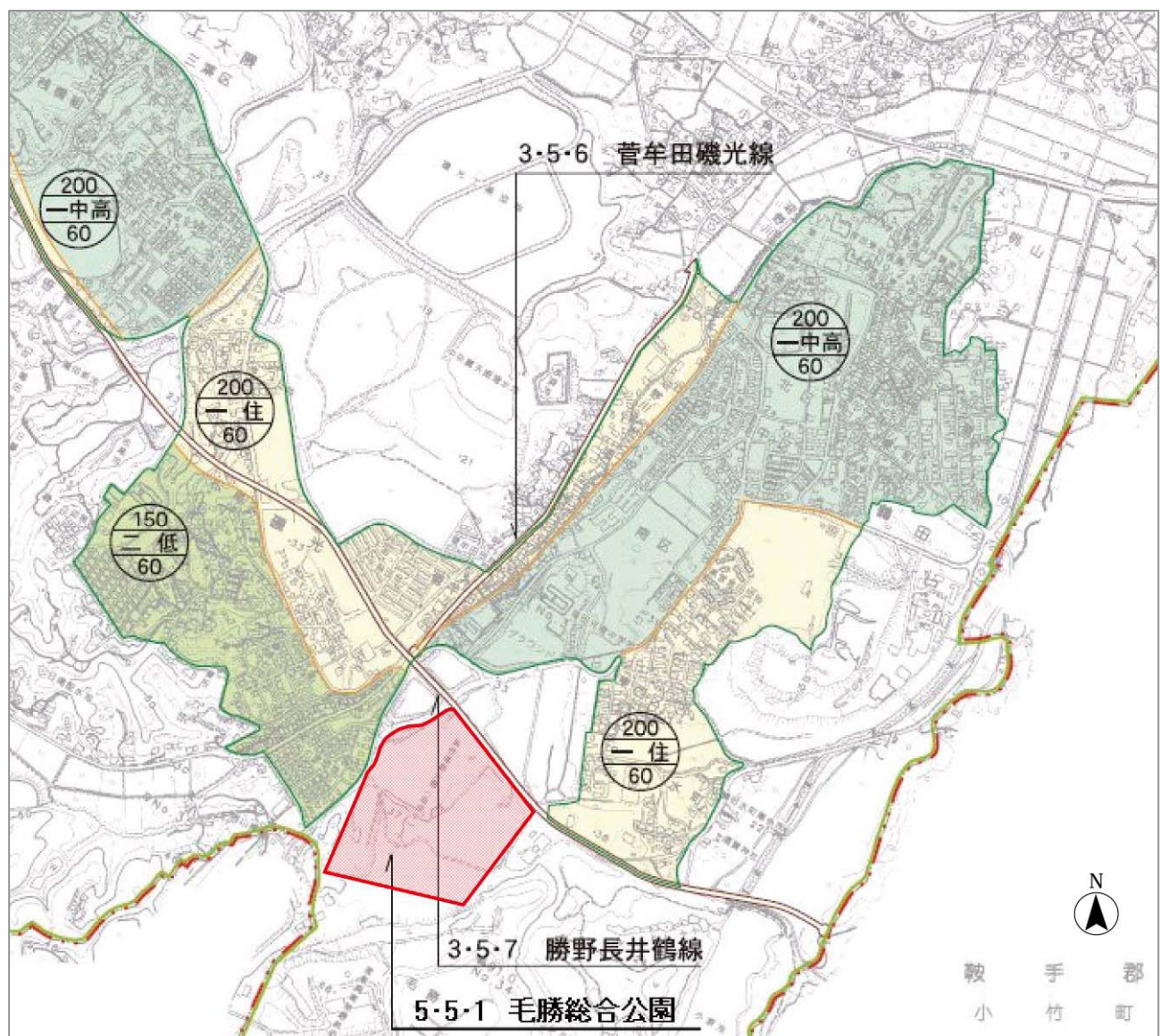


図 毛勝総合公園位置

## (5) 下水道

## ○供用開始区域は一部に留まる

公共下水道については、遠賀川中流流域下水道に属し既成市街地を中心として計画されています。平成23年2月現在供用されているのは、龍徳、本城、鶴田地区のみとなっており、河川、生活環境の向上と産業基盤確保に向けた今後の整備進捗が求められます。

区 分	面積・延長など		
	計 画	供 用	供用率
公共下水道	548ha	59.1ha	10.8%
特定環境保全公共下水道	206ha	0.0ha	0.0%
ごんすけ 権助都市下水路（権助ポンプ場）	590m	590m	100.0%

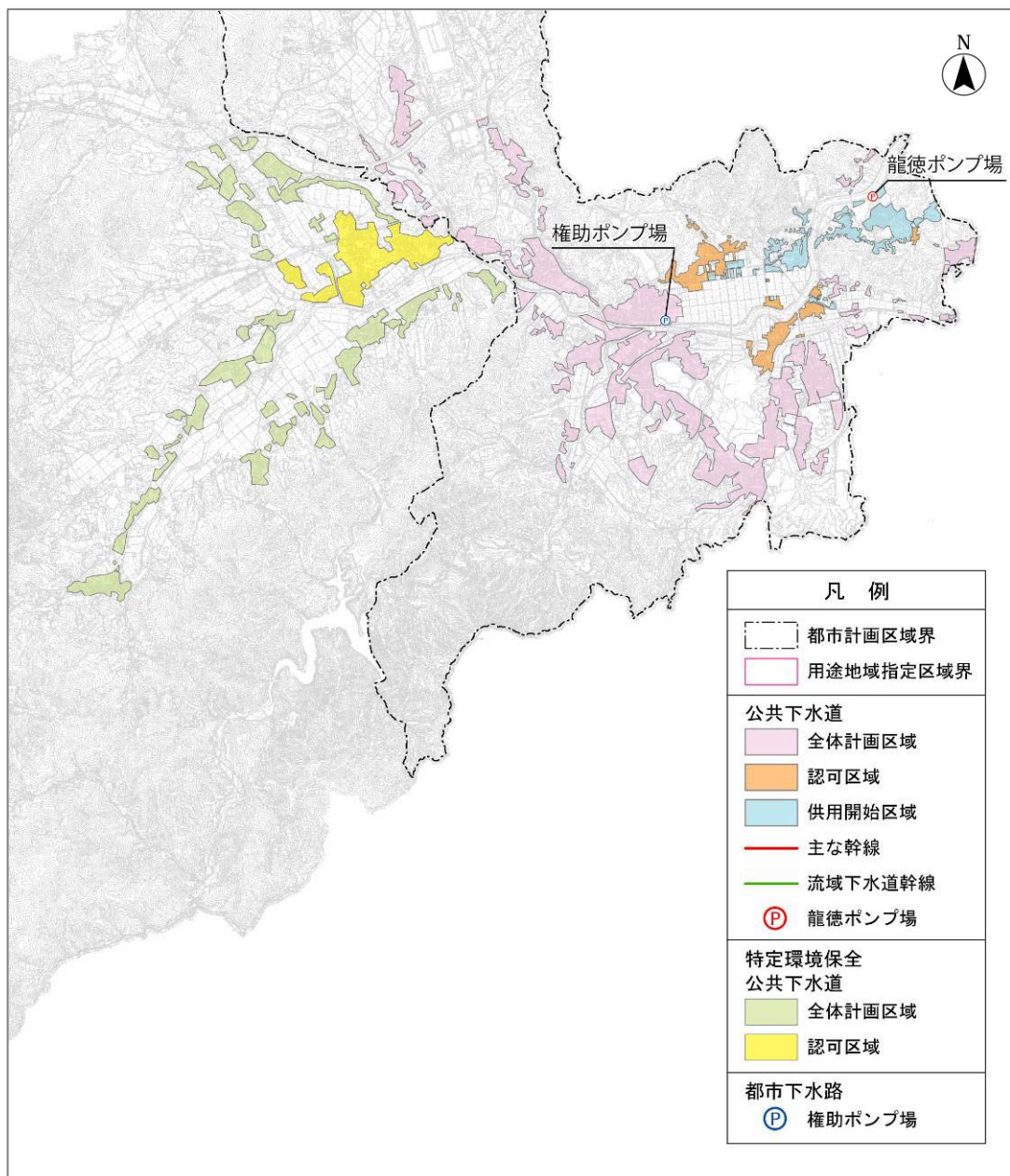


図 公共下水道整備状況（平成23年2月現在）

## 2-4. 市民の意識

### (1) 市民ボランティアからの提言

市民ボランティア会議は、都市計画マスタープランの策定を通して、市民と行政が適切な役割分担で、協働して対応することのできるしくみづくりを進めて行くことを目的として開催されました。(資料編1参照)

会議を通して、各地域において以下のような目標や方向性が検討されました。

- 土地利用面では、特に若い世代の定住を進めるための住宅地整備や、住みたくなるような環境整備が求められています。
- 都市施設面では、通学路の安全確保が特に求められるとともに、市の玄関口である若宮インターチェンジ周辺の整備や歴史文化資源の案内・休憩所整備などが求められています。
- 都市環境面では、宮若市の重要な資源である自然環境を保全するための取り組みのほか、主に水害を対象とした防災対策、歴史や観光の拠点づくりが求められています。
- バスの利便性向上や地域交流の活性化、歴史・文化・観光資源の発掘や有効活用、積極的な情報発信が求められています。

	地域名	地域づくりのキャッチフレーズ	分野毎での提案施策
宮田地区	宮田南	住みやすいまちから住みたいまちへ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅地の照明整備</li> <li>●旧宮田駅跡地の公園化、交通安全</li> <li>●地区単位で自主防災の話し合い、イベントを行う</li> <li>●若宮インターチェンジと赤間駅行のバスの整備</li> </ul>
	宮田北	六ヶ岳と先人に学ぶまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>●きれいで住みやすい街をつくる(ゴミを拾うなど)</li> <li>●通学路を主体とした歩道の整備</li> <li>●筑豊全体で炭坑ツーリズム、石炭記念館を移設して歴史観光拠点にする</li> <li>●ショッピングセンター2階の空室利用による石炭記念館の有効活用</li> </ul>
	宮田東	安全で安心なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅の密集を改善するためのルールづくり</li> <li>●通学路の安全確保と事故対策</li> <li>●地域住民の意見を踏まえた治水対策</li> <li>●天照宮など歴史的資源の緑の保全</li> </ul>
	宮田	若さキラメキ宮小地域!	<ul style="list-style-type: none"> <li>●空き地を利用し、若い世代の定住化促進</li> <li>●通学路の歩道確保、道路排水の整備、住宅地の駐車場整備</li> <li>●ボランティアによる不法投棄回収</li> <li>●歴史的資源のアピール</li> </ul>
	笠松	定住できる豊かな住環境と利便性の高い工業地の共存・共栄	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校区に配慮した住宅地化の推進</li> <li>●寺社・仏閣の案内所、休憩所の検討・設置</li> <li>●地元からの啓発活動と行政からの支援(地域の美化活動)</li> <li>●歴史的財産を発掘、整備し行政から観光資源への援助を図る</li> </ul>
若宮地区	若宮	もやいのまち 若宮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商店街に人を集める取り組み</li> <li>●若宮ICをもっと便利に</li> <li>●自然が多いのはいいが、適切な管理が必要、おいしい水、空気をアピール</li> <li>●利用者の意見を踏まえた公共施設整備、一番大切なのは人づくり</li> </ul>
	山口	きて、みて、住んでみらんね山口に	<ul style="list-style-type: none"> <li>●若者の定住化、交流人口拡大のための住宅地の確保</li> <li>●通学路の安全確保</li> <li>●里山の保全、彼岸花、自然の景観・自然環境の保全(山の手入れ)</li> <li>●収穫祭、運動会を通じ地域の交流を図る</li> </ul>
	若宮西	未来へ残そう 西山・雲海の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農地の維持・管理の検討(後継者問題・耕作放棄地)</li> <li>●通学路関連の交通安全対策について住民と行政が一体となった研究会の発足</li> <li>●清水寺から西山への登山道の維持・管理の体制づくり(西山観光計画の検討)</li> <li>●将来できるであろう小学校跡地の有効活用</li> </ul>
	吉川・若宮南	あたたかい心の古里 若宮	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大型ダンプが生活道路を走っていることに対する交通安全対策</li> <li>●通学ルートの歩道の整備</li> <li>●民宿施設の整備(公民館の活用)</li> <li>●ドリームホープのトイレの夜間解放、足湯の整備</li> </ul>

● : 土地利用 ● : 都市施設 ● : 都市環境 ● : その他



(2) アンケート結果による市民の意識

平成 20 年に実施した「宮若市の都市計画に関するアンケート」調査及び、第 1 次宮若市総合計画策定に際して平成 18 年に行った「市民意識調査」結果における、まちづくりに関する市民の意識は以下のとおりです。

<アンケートの実施要領>

●宮若市の都市計画に関するアンケート

無作為に抽出した市民 2,500 人に配布。(有効回答 765 票、回答率 30.6%)

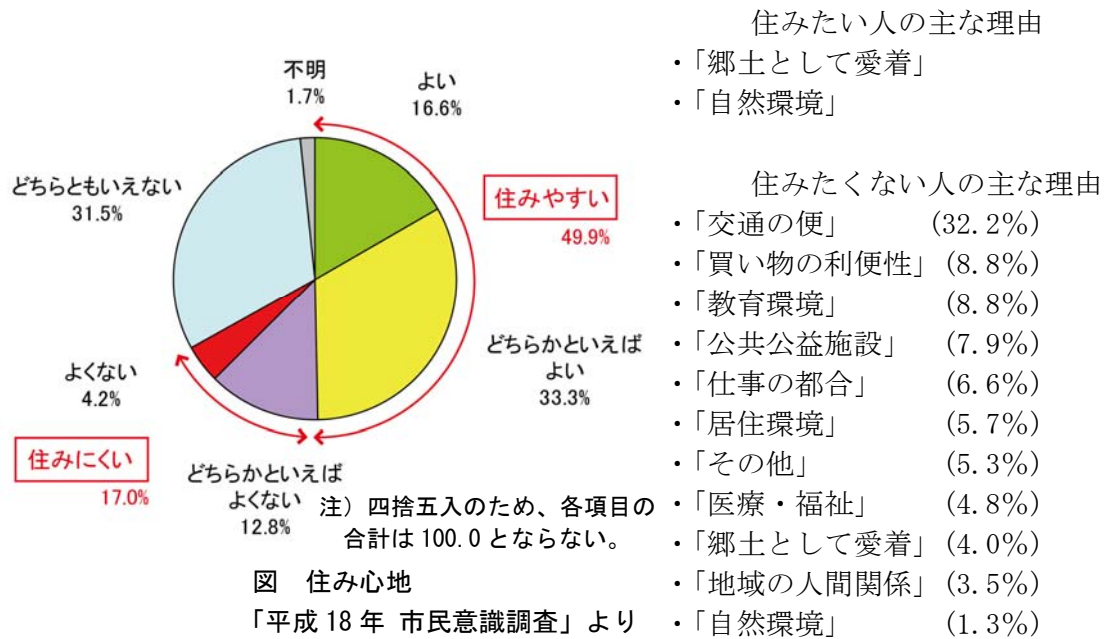
●市民意識調査

無作為に抽出した市民 3,000 人に配布。(有効回答 1,300 票、回答率 43.3%)

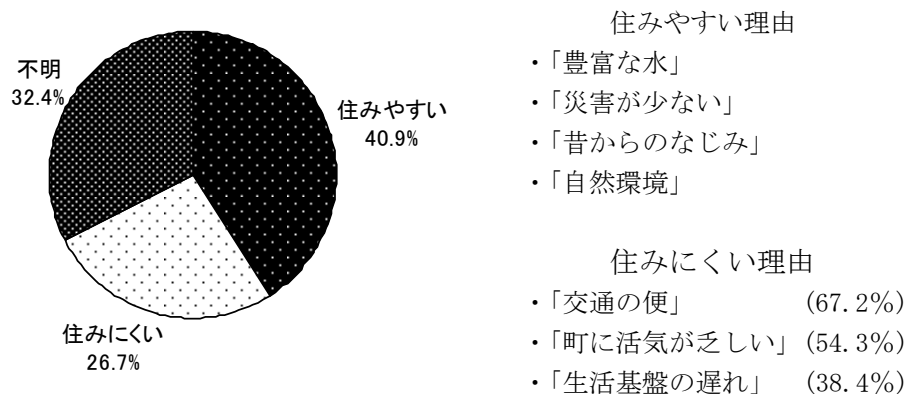
■住み心地

**住みやすいと感じている人は半数に留まり、特に交通の便の悪さへの不満が大きい。**

- ・まちの住み心地に対して「よい」、「どちらかといえばよい」と感じている人が、合わせて 49.9%と、住みやすいという評価が約半数となっています。
- ・住みにくい要因としては、宮田町都市計画マスタープラン策定時のアンケート結果と同様に、交通の便の悪さが特に高くなっています。



宮田町都市計画マスタープラン策定時におけるアンケート結果



■まちの将来像

安全・安心や環境共生など生活環境に関する期待が高い。

- ・まちの将来像は「誰もが安全で安心して暮らせる安全安心都市」が最も高い割合となっており、まちの安全・安心を望んでいる人が多いことが伺えます。
- ・次いで「豊かな自然に恵まれた環境共生都市」となっています。
- ・宮田町都市計画マスタープラン策定時のアンケート結果と比較すると、生活環境に関する項目への期待が特に高くなっていることが伺えます。

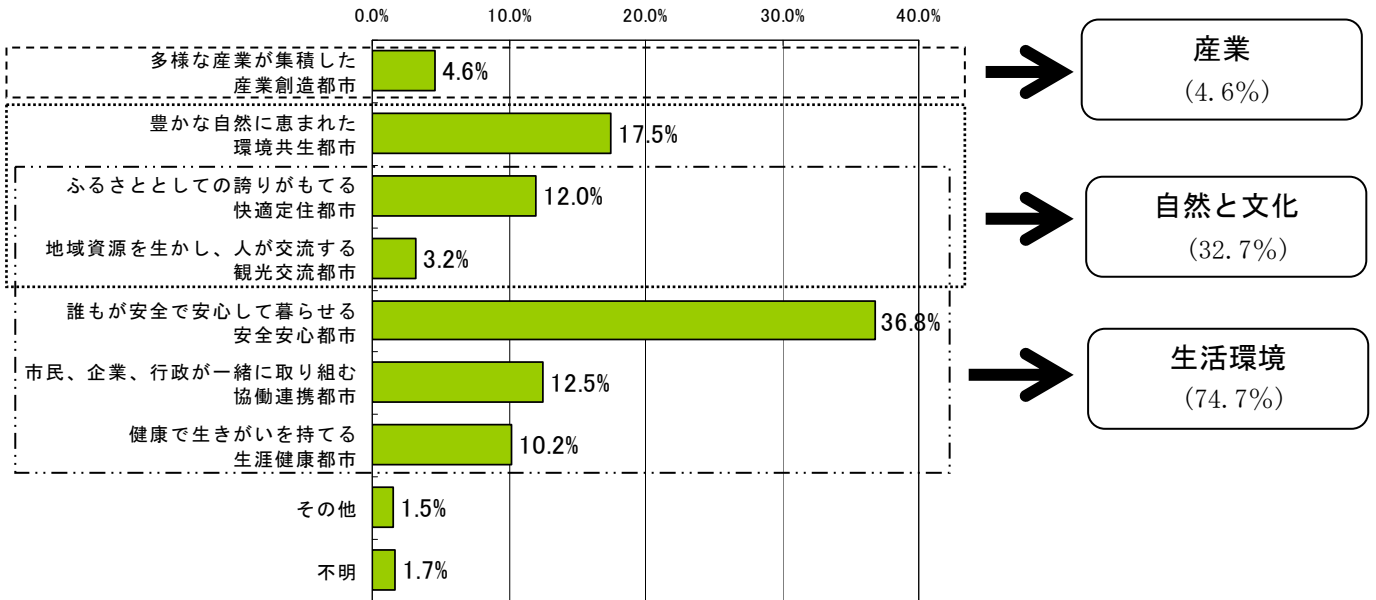
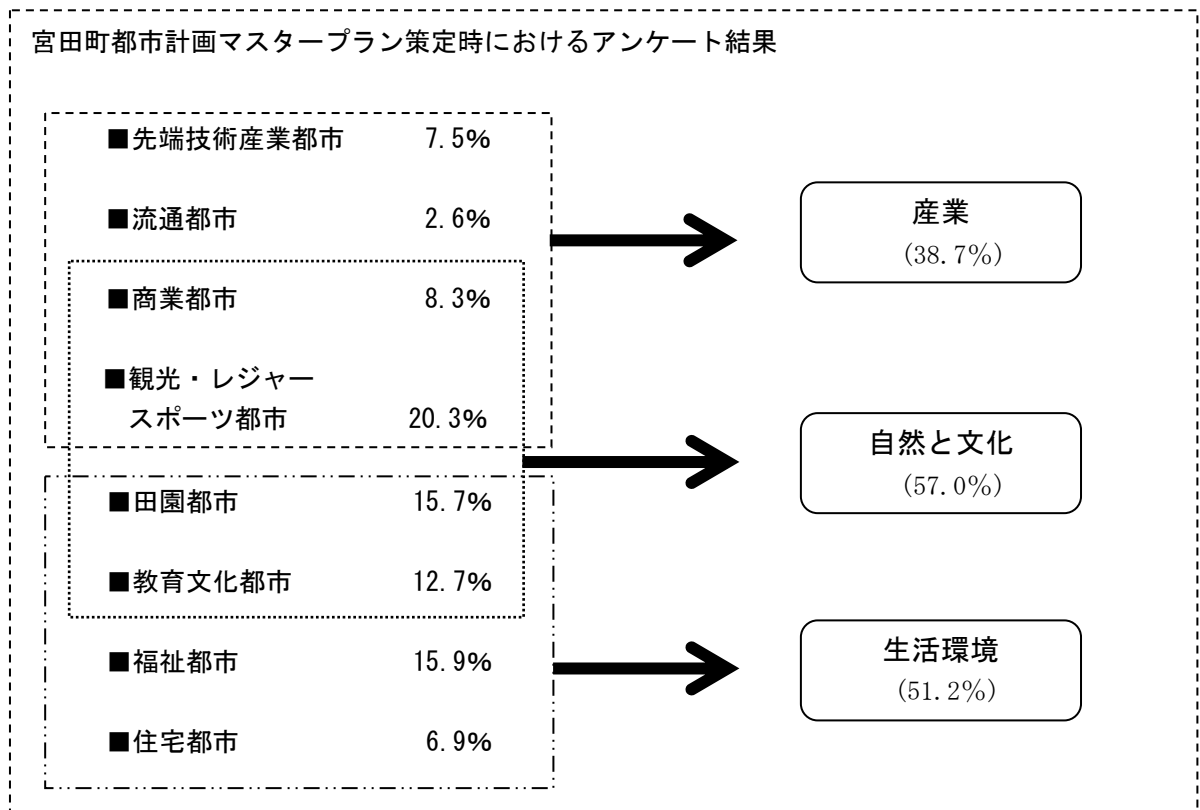


図 まちの将来像

「平成18年 市民意識調査」より



■宮若市全体の好きなおところ、改善して欲しいところについて

●好きなおところ、良いと思う環境など

市全体の好きなおところは農地や山林などの緑、次いで蛭がいる川、ため池などの親水空間。

- ・宮若市の好きなおところは、「農地（田んぼや畑）や山林などの緑」が最も多く 22.3%、次いで「蛭がいる川、ため池などの親水空間」が 20.4%となっており、宮若市の持つ地域資源に誇りをもっていることが伺えます。
- ・一方で公共交通機関や道路・歩道空間といった、日常生活の移動に関わる評価が低くなっています。

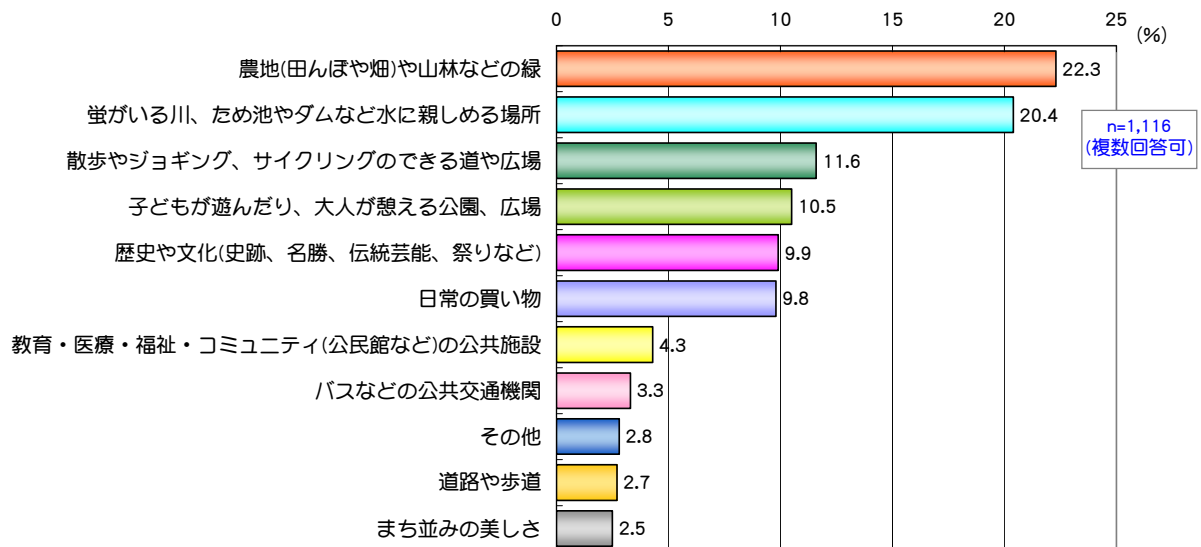


図 宮若市全体の好きなおところ、良いと思う環境など

「平成 20 年 宮若市の都市計画に関するアンケート」より

- ・回答率の高い上位 2 項目より主な内訳をみると、1 位「農地（田んぼや畑）や山林などの緑」では、「緑・自然が多いこと」や地区の「田んぼや畑」を挙げる方が多く、2 位「蛭がいる川、ため池などの親水空間」では、「千石地区」や「脇田地区」を挙げる方が特に多くなっています。次いで、「犬鳴周辺」を挙げる方が多くなっています。

表 宮若市全体の好きなおところ、良いと思う環境（主なもの）

項目	好きなおところ、良いと思う環境	回答数
1 位 農地（田んぼや畑）や山林などの緑	緑、自然が多いこと	17
	田んぼや畑（清水寺周辺や川沿い）	13
	山（六ヶ岳など）	7
2 位 蛭がいる川、ため池などの親水空間	千石（キャンプ場や川沿い）	29
	脇田（温泉や川沿い）	26
	犬鳴（ダムや川沿い、河川公園）	19

「平成 20 年 宮若市の都市計画に関するアンケート」より

●嫌いなところ、改善して欲しい環境など

**宮若市全体の改善して欲しいところはバスなどの公共交通機関、次いで道路や歩道。**

- ・宮若市の改善して欲しいところは、居住する小学校区での評価と同様に、また好きなどころでの評価が低かった「バスなどの公共交通機関」(18.3%)、及び「道路や歩道」(15.3%)などの、交通に関する項目が特に高くなっています。
- ・次いで、公民館などの公共施設(12.3%)、日常の買い物環境(12.0%)、公園・広場などのオープンスペース(11.3%)に関する不満が高いようです。

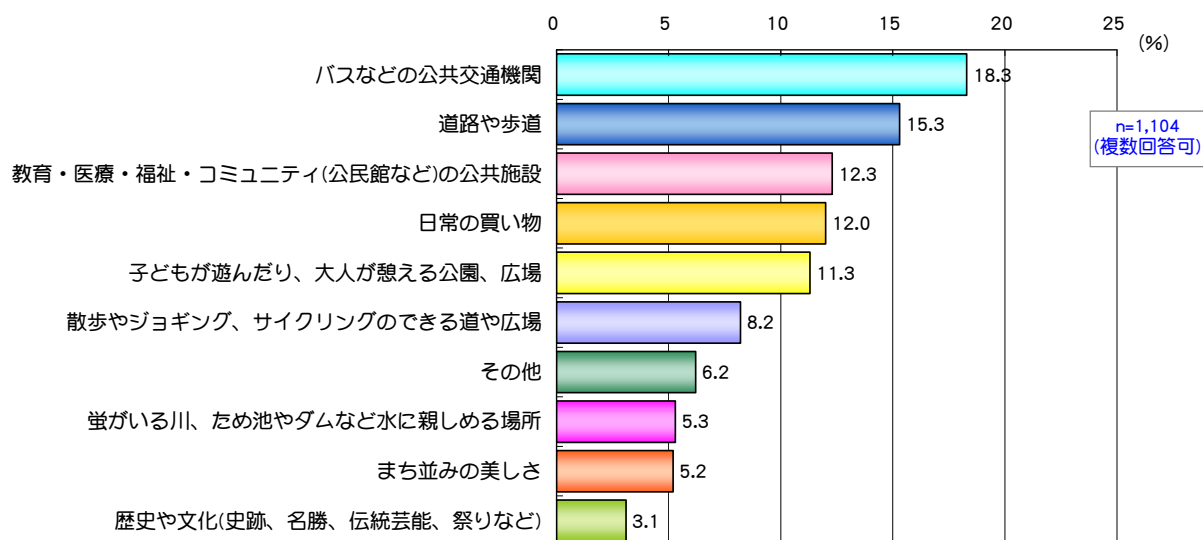


図 宮若市全体の嫌いなところ、改善して欲しい環境など

「平成 20 年 宮若市の都市計画に関するアンケート」より

- ・回答率の高い上位 2 項目より、主な内訳をみると、1 位「バスなどの公共交通機関」では、「バスの本数」や全体的な「公共交通の不足」を挙げる方が特に多く、2 位「道路や歩道」では、「道路状況 (狭い、でこぼこしている)」や「歩道の整備 (歩道が無い、狭い)」について意見を挙げる方が多くなっています。

表 宮若市全体の嫌いなところ、改善して欲しい環境 (主なもの)

項目	嫌いなところ、改善して欲しい環境	回答数
1 位 バスなどの公共交通機関	バスの本数 (少ない、時間帯)	39
	公共交通の不足 (赤間駅へのアクセスや電車が無いなど)	35
	バスのルート、バス停の場所	13
2 位 道路や歩道	道路状況 (狭い、でこぼこしている)	30
	歩道の整備 (歩道が無い、狭い)	24
	道路のゴミや雑草	12

「平成 20 年 宮若市の都市計画に関するアンケート」より

## 2-5. 宮若市における都市計画の課題

本市を取り巻く社会経済情勢や本市の現況、市民の意向を踏まえて、都市計画の課題を以下のように整理しました。

### (1) 住み続けられる都市の実現

#### ■公共交通サービスの維持

本市には鉄道が運行しておらず、唯一の公共交通手段であるバスも利便性が低いことから、移動に際しては自動車为主体となり、更にバス利用者が減少し、バス交通サービスが低下するといった悪循環に陥っています。

アンケートによる市民意向調査結果や市民ボランティア会議においても公共交通機関の利便性は最大の問題点となっており、今後も増加する高齢者をはじめとした交通弱者の移動手段の確保が一層求められるなかで、誰もが便利に暮せる交通環境づくりを進めていく必要があります。

また、自動車を主体とした生活は住む場所を限定しないことから、結果として低密度な市街地の拡大によるまとまりのない都市構造を形成する要因となっています。今後も市街地の無秩序な拡散が進んだ場合には、バスの利用者が減少し、バス路線が更に廃止されていくことが予想されます。

#### ■中心市街地の活性化

本市の中心市街地は、市役所(本庁舎)が位置する宮田ですが、鉄道の廃線などによりその拠点性が薄れるとともに、都市的魅力に乏しく衰退傾向にあります。

用途地域指定のなかで商業地域が指定され、中心市街地としての位置付けは明確化されましたが、依然として活気に乏しい状況にあることから、生涯学習拠点施設整備をきっかけとしながら、まちの顔でもある中心市街地の維持や活性化に努めていく必要があります。

また、若宮総合支所周辺は本市における副次的な中心市街地と言えますが、中心市街地と同じく人通りが少なく衰退傾向にあり、若宮コミュニティセンター整備をきっかけとした活性化が求められています。

#### ■農業を支える集落地の活性化

農業は本市の重要な産業であり、農業従事者の暮らす集落は農業を支える重要な基盤であるといえます。しかしながら、集落によっては大幅な人口減少が見られるところもあり、集落地における活性化も求められています。

#### ■住み続けられる住環境の形成

本市の人口は、若者などの市外への流出過多により減少傾向にあります。市外への流出を抑制し人口を維持していくためには、道路や公園などの整備をはじめ、買い物や教育など生活環境の全般的な向上が求められています。

## ■雇用者の創出に寄与する産業の振興

本市は2つの政令市の中間に位置することや、高速道路網への近接性をきっかけとしながら、製造業や情報産業などの企業誘致を進め、トヨタ自動車九州をはじめとした多くの企業立地が進み、多くの雇用を創出してきました。

本市内においては、大規模な未利用地もいまだ残存するとともに、宮田団地に近接するスマートインターチェンジ整備も平成21年より着手されており、企業立地を今後も進め、さらなる雇用の創出を図っていくことも必要です。

## ■市民全体や企業に対する高速通信環境の整備

情報通信技術を用いた行政サービスは、市民に利便性をもたらし、住みよさにつながります。高速通信環境が新たな企業誘致の必要条件として求められ、教育や医療など多方面においても情報通信技術が活用されるなかで、高速通信環境は、まちづくりの重要な要素となっています。

本市においては、平成18年に公共施設など相互を結ぶ地域イントラネット※（光ケーブル）の構築が行われました。なお、市民全体や企業への高速通信環境の充実については、民間事業者の参入による整備が求められています。

## （2）住みたい都市の実現

### ■魅力ある住環境の形成

本市において新たに立地した企業の従業員の多くは、早くから福岡市、北九州市のベッドタウンとして魅力ある住環境づくりに取り組んできた宗像市に居住している状況にあります。このような立地企業の従業員の定住を促すためには、道路や公園などの整備をはじめ、公共交通の利便性、買い物や教育など、生活環境の全般的な向上が求められています。

また、定年後に山や緑、自然に恵まれた魅力ある環境のなかで新しい暮らしを始める人も増加傾向にあります。福岡都市圏と北九州都市圏の双方に適度に近接し、都市圏に住む子供や友人とも交流しやすく、自然や歴史、おいしい水※などの魅力ある環境を有する本市は、その有力な候補地であり、このような新たな定住需要を積極的に受け入れるためにも魅力的な生活環境の形成が求められています。

### ■多様化する価値観に対応した生活基盤施設の充実

多様化する価値観のなかで、健康でゆとりある暮らしを実現するため、生涯学習やスポーツ施設などの教育・文化・レジャー環境の充実を進めていく必要があります。

### (3) 都市施設の整備推進

#### ■都市計画道路の整備推進

本市の都市計画道路は、当初、石炭採掘期である昭和 25 年に都市計画決定された路線が多く、目的を失い、長期にわたって未着手となっている路線が存在していたため、宮田町都市計画マスタープランを踏まえ、平成 17 年に大幅な見直しを行っています。

現在、都市計画道路 勝野長井鶴線において事業が進められていますが、都市計画道路網全体としての整備率は低く、その整備を推進していく必要があります。

#### ■市民生活に身近な公園・緑地の確保

本市における都市計画公園として、平成 21 年に毛勝総合公園が都市計画決定されており、その整備が求められています。その他の公園として、2000 年公園や犬鳴川河川公園、西鞍の丘総合運動公園、いこいの里“千石”など、大規模な公園、レクリエーション施設が存在しています。

しかしながら、市民に身近な公園はほとんど存在していない状況にあります。特に子育て環境や快適さにつながる公園などの緑地空間は、定住人口の増加に貢献することも期待されることから、市民生活に身近な公園・緑地空間の確保が求められています。

#### ■生活雑排水の適切な処理

市民アンケート結果では、「市の好きなどころ、良いと思う環境」として約 20%の人が水環境を挙げており、具体的には「蛍がいる川、ため池などの親水空間」に強い愛着を持っています。

本市では、汚水処理施設の整備は公共下水道事業と浄化槽設置整備事業により順次進めています。家庭から流れ出る生活雑排水の放流については、現在のところ法的規制がなく、未処理の排水が河川汚濁の主な原因となっていることから、その適切な処理が求められています。

#### ■災害予防と減災対策

本市は、その地理的特徴から、特に大雨時に水害が発生してきました。河川改修などにより、河川自体の治水能力が向上し、被害が減少傾向にあるものの、依然として浸水被害などが発生しており、その予防・減災対策が求められています。

また、地震発生の可能性も皆無ではなく、もし発生した場合には大きな被害が発生する恐れがあり、地震に対する対策も求められています。

#### (4) 優良農地の保全

本市においては、企業誘致により自動車製造業をはじめとした第2次産業が目覚ましい発展を遂げていますが、農業は今後も本市の基幹産業の一つです。この農業基盤である田畑は本市の土地面積の約15%を占め、食を育む重要な役割を担っていると同時に、本市の魅力の一つである豊かな自然の一部を形成し、本市をイメージづける重要な田園景観でもあります。

しかしながら、一部で住宅や店舗の立地が進み、そのままにしておくとさらに優良農地が失われていく可能性があります。

農業の重要性が改めて見直されるなかで、農地の保全が強く求められており、そのための将来都市構造や土地利用のあり方、農地の管理のあり方を考えていく必要があります。

#### (5) 豊かな自然環境の保全

市民アンケート調査や市民ボランティア会議の提言において、本市の豊かな自然、その自然に育まれたおいしい水は、かけがえのない資源と認識されており、その積極的な保全が求められています。

#### (6) 協働の体制づくり

本市では、協働によるまちづくりを進めるための仕組みとして、地域自治の基本となる「宮若市自治基本条例※」を平成22年に制定しました。

まちづくりにおいても、住環境整備や、公園道路などの整備及び維持管理、中心市街地活性化などの計画や整備・維持の場面において、行政だけでなく市民、事業者も含めた協働体制が不可欠です。

また、市民アンケート調査においては、「宮若市全体の好きどころ、良いと思う環境」で歴史や文化（史跡、名勝、伝統芸能、祭りなど）も比較的高い評価になっています。この史跡、名勝や伝統芸能、祭りを維持していくためには、地域コミュニティ※を維持することが重要であり、歴史や文化を維持し、地域の豊かさを実現することが求められています。

都市計画マスタープランなどにより、まちづくりに関する共通の将来像を明確にしながら、その将来像を達成するために、補完、協力し合ってまちづくりを進めていく必要があります。



## 宮若市における都市計画の課題

### 宮若市の現状

- (1) 人口
  - 進む人口減少と核家族化の進行
  - 用途地域内を中心に人口密度は高い
  - 本市の基幹産業は製造業と農業
  - 工場立地に伴い、流入人口が大幅に増加
  - 北九州市との繋がりが増加
- (2) 産業
  - 総事業所数は減少傾向
  - 製造業事業所数が多い
  - 農業産出額は25億円前後で推移
  - 工業出荷額は大幅な伸び
  - 突出した輸送用機械器具の販売額
  - 商業販売額は近年大幅な落ち込み
- (3) 土地利用
  - 市域の85%が自然的土地利用
  - 宅地化や工業立地による農地の転用
  - 都市計画区域内において他の法適用がなされていない白地地域が多く存在
  - 住宅の割合が多いが、宮田団地周辺や旧町境部などにおいて工業施設も多く立地
- (4) 交通
  - 主要地方道により、東西、南北方向に主要な骨格が形成
  - 若宮インターチェンジやスマートインターチェンジ（整備中）が存在
  - 公共交通サービスが低下
- (5) 都市施設
  - 平成17年に大幅な見直しを実施（都市計画道路）
  - 平成21年に毛勝総合公園を都市計画決定（都市計画公園）
  - 供用開始区域は一部に留まる（下水道）

### 時代の潮流とその影響

1. 人口減少時代の到来と少子高齢化の一層の進行
2. 環境共生の時代
3. 価値観の多様化への対応
4. 高度情報化の時代
5. 新しい産業の時代
6. 安全で安心して暮らせる社会の形成
7. 地方分権と連携の時代
8. 協働のまちづくり

### 市民の意識

#### (1) 市民ボランティアからの提言

- 土地利用面では、特に若い世代の定住を進めるための住宅地整備や、住みたくなくなるような環境整備が求められています。
- 都市施設面では、通学路の安全確保が特に求められるとともに、市の玄関口である若宮インターチェンジ周辺の整備や歴史文化資源の案内・休憩所などが求められています。
- 都市環境面では、宮若市の重要な資源である自然環境を保全するための取り組みのほか、主に水害を対象とした防災対策、歴史や観光の拠点づくりが求められています。
- バスの利便性向上や地域交流の活性化、歴史・文化・観光資源の発掘や有効活用、積極的な情報発信が求められています。

#### (2) アンケート結果による市民の意識

- 住み心地**
  - ・住みやすいと感じている人は半数に留まり、特に交通の便の悪さへの不満が大きい。
- まちの将来像**
  - ・安全・安心や環境共生など生活環境に関する期待が高い。
- 好きなところ、良いと思う環境など**
  - ・市全体の好きなところは農地や山林などの緑、次いで蛍がいる川、ため池などの親水空間。
- 嫌いなところ、改善して欲しい環境など**
  - ・宮若市全体の改善して欲しいところはバスなどの公共交通機関、次いで道路や歩道。

### 宮若市における都市計画の課題

#### (1) 住み続けられる都市の実現

- 公共交通サービスの維持
- 中心市街地の活性化
- 農業を支える集落地の活性化
- 住み続けられる住環境の形成
- 雇用者の創出に寄与する産業の振興
- 市民全体や企業に対する高速通信環境の整備

#### (2) 住みたい都市の実現

- 魅力ある住環境の形成
- 多様化する価値観に対応した生活基盤施設の充実

#### (3) 都市施設の整備推進

- 都市計画道路の整備推進
- 市民生活に身近な公園・緑地の確保
- 生活雑排水の適切な処理
- 災害予防と減災対策

#### (4) 優良農地の保全

#### (5) 豊かな自然環境の保全

#### (6) 協働の体制づくり

### 宮田町都市計画マスタープランの実施検証

- 宮田町都市計画マスタープランにおける主要施策の多くは実施済みもしくは着手済みです。
- 特に用途地域指定ならびに都市計画道路網の抜本見直し、本市で初めての都市計画公園である毛勝総合公園の計画決定などにより、宮田地区においては実効的な都市計画の枠組みが形成されたとと言えます。